

人と環境・動物問題の連携の在り方 ～ガイドラインを活かして～

高齢者のペット飼育に関する調査結果から見えた現状と課題

令和6年2月17日 第2回ワンウェルフェア大会・学会

東京農工大学 フロンティア研究環「伴侶動物臨床拠点」
産学官研究員 三好康子

- ▶ 今回使用する調査報告書は2020～2022年度に実施した東京都の大学研究者による事業提案制度採択事業「大学と自治体、企業、NPO の協働による高齢者の福祉向上を目指した動物との共生社会の実現と拠点形成」により東京農工大学が行いました。

動物病院でのアンケート調査

- ▶ 犬の飼育者に対する犬の問題行動に関する意識調査

回答者数: 9 1 7名(うち、男性1 5 3名、女性7 5 7名、回答なし7名)

- ▶ 猫の飼育者に対する猫の問題行動に関する意識調査

回答者数: 6 4 3名(うち、男性8 7 名、女性5 4 7名、回答なし7名)

- ▶ 犬猫を飼育している高齢者に対する動物飼育に関する意識調査

回答者数: 4 8 5名(うち、男性1 3 5名、女性3 4 9名、回答なし1名)

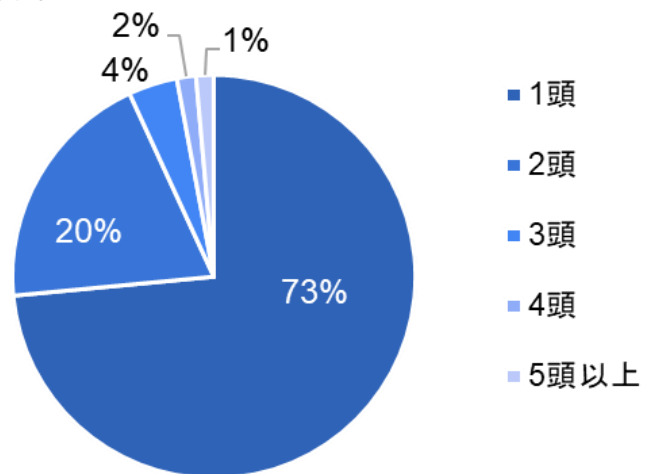
調査期間:2020年10月末から2021年7月末まで

調査方法:東京都獣医師会に所属するA会員病院636件に対してアンケートのポスター提示を依頼、来院者がQRコードを読み取ることによりWeb上から回答

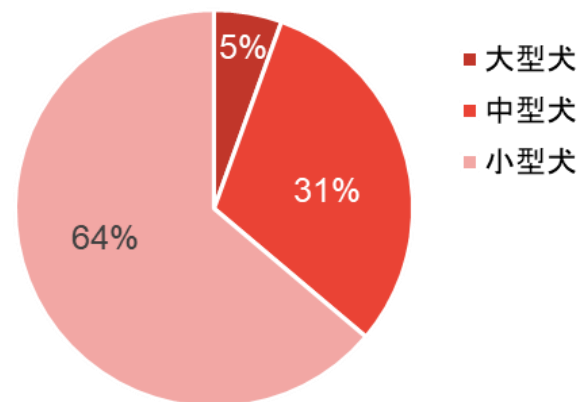
犬

何頭犬を飼っていますか？
犬の大きさはどのくらいですか？あてはまるものすべてを選んでください

飼育頭数



飼育している犬の大きさ

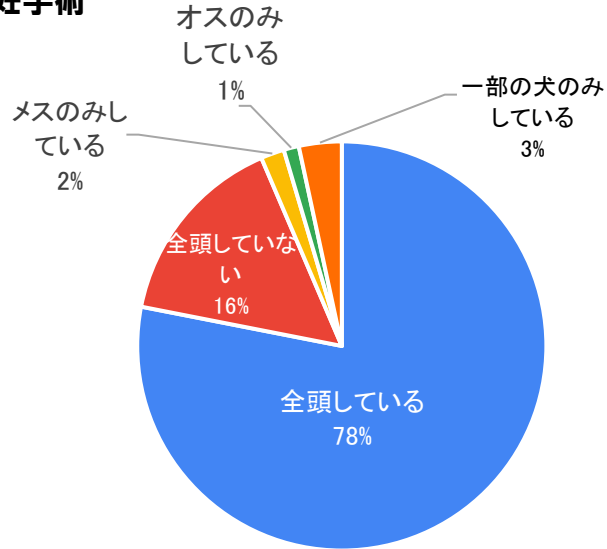


917名の回答者のうち全体の3/4の方は1頭しか飼育しておらず、飼育されている犬の全体の67%が小型犬であった。

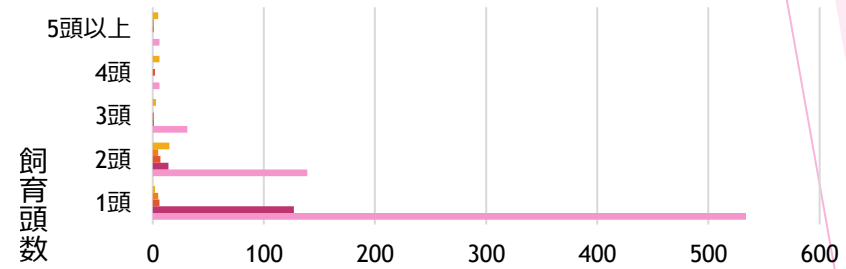
犬

避妊手術または去勢手術はしてありますか？

不妊手術



飼育頭数と不妊手術の実施状況

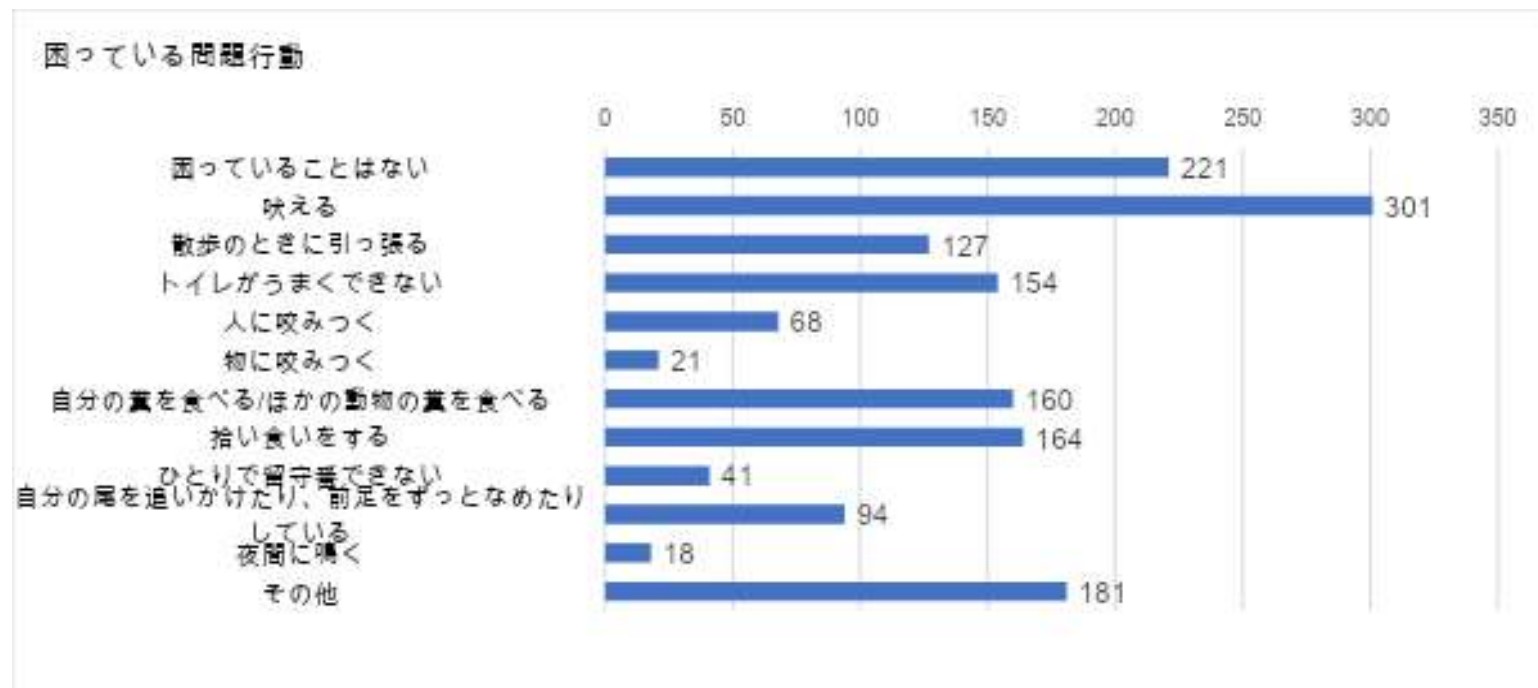


	1頭	2頭	3頭	4頭	5頭以上
一部の犬のみしている	2	15	3	6	5
オスのみしている	5	5	0	0	1
メスのみしている	6	7	1	2	1
全頭していない	127	14	1	0	0
全頭している	534	139	31	6	6

全体の8割近くが不妊手術をしている。不妊手術を全頭していない場合、どのような状況かを見ると多頭飼育者の中には全頭不妊していない家庭もある事がわかる。

犬

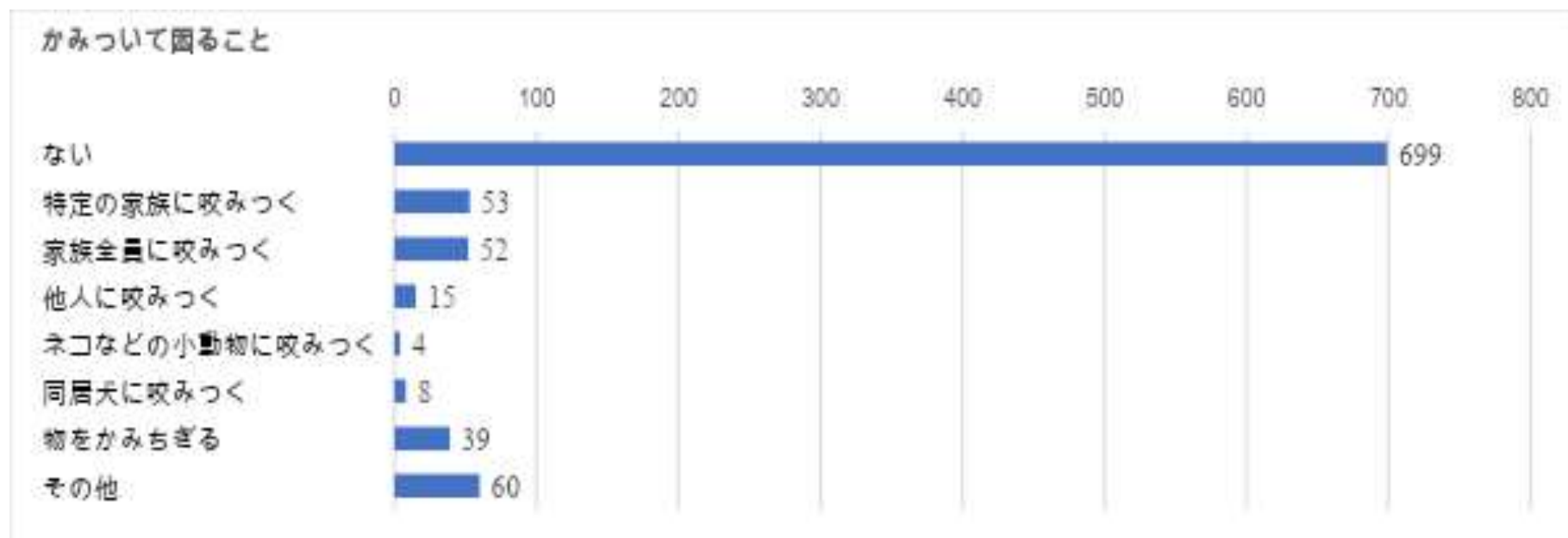
犬の行動に関して困っていることはありますか？（複数回答可）
困った行動を治したいと思ったことはありますか？



犬の困っている行動に関する質問に対する結果は上図のとおりである。全体の3割が「吠える」を問題行動として認識している。犬の問題となる行動に対し、治したいと思っている人は74%であった。

犬

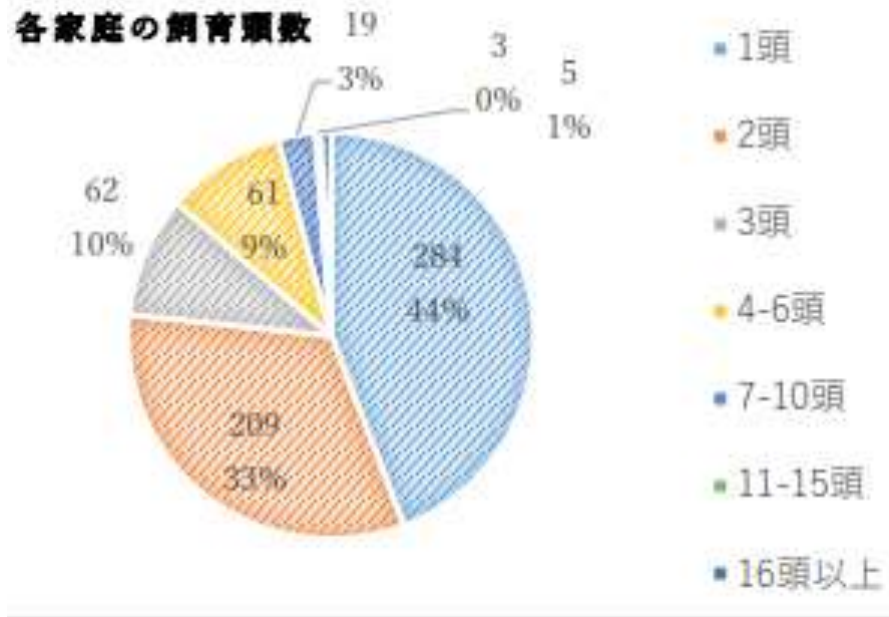
咬みついて困ることはありますか？（複数回答可）



咬みついて困ることに関して聞いたところ、76%が「ない」と回答している。しかし、病院を受診するほど飼い犬にかまれたことはあるかの問いに対し、909名の回答者のうち7%の61名がはい、と回答しており、しつけに関して知りたいことの問いに対して回答者917名中109名は「咬みつくことをやめさせたい」と回答している。

猫

何頭猫を飼っていますか？



各家庭での飼育頭数は1頭を飼育している回答者が最も多く284名であった。2頭飼育者は209名で、3頭以上飼育している方も150名と多く、11頭から15頭飼育している人3名、16頭以上の人も5名いた。

猫

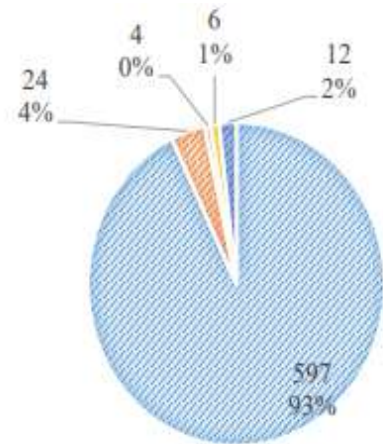
猫をどこで飼っていますか？

猫をどこで飼育しているか？	回答数	割合
完全屋内で自由にさせている	600	93.3%
屋内のケージの中だけ	3	0.5%
主に屋内だが外にも出す	11	1.7%
主に外だが屋内にも入れる	1	0.2%
完全に外	0	0.0%
室内飼いの猫と外飼いの猫の両方がいる	7	1.1%
その他	21	3.3%

猫の飼育場所は93%が完全室内飼育をさせていた。昔のように外にも自由に出すスタイルは11名しかおらず、猫の室内飼育に対する意識の変化はみられるが、本アンケートは動物病院に来る人に対してであるため意識の高い人が多いと考える。

猫

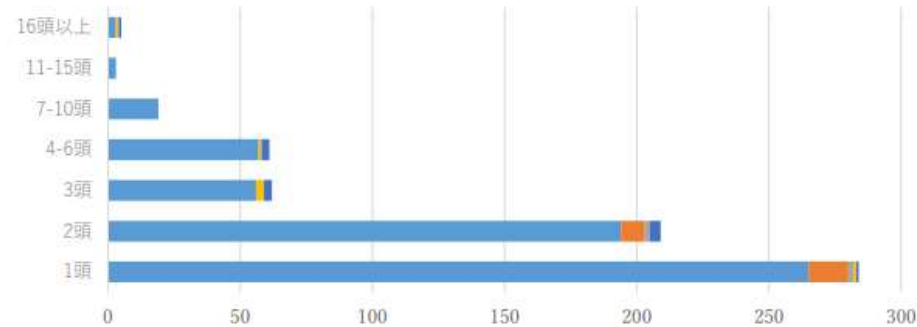
避妊手術または去勢手術はしてありますか？



飼育している猫の不妊手術の割合

- 全頭している
- 全頭していない
- メスのみしている
- オスのみしている
- 一部の猫のみしている

飼育頭数と不妊手術の実施に関して

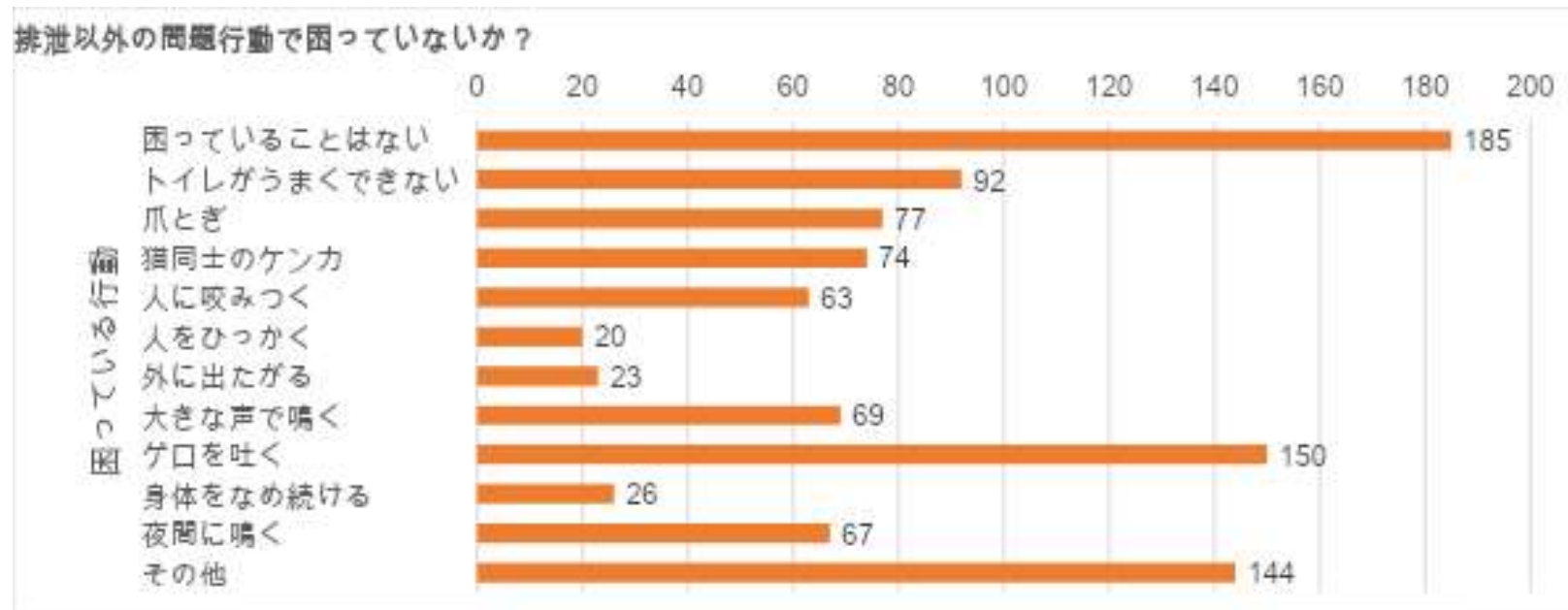


	1頭	2頭	3頭	4-6頭	7-10頭	11-15頭	16頭以上
■ 全頭している	265	194	56	57	19	3	3
■ 全頭していない	15	9	0	0	0	0	0
■ メスのみしている	2	2	0	0	0	0	0
■ オスのみしている	1	0	3	1	0	0	1
■ 一部の猫のみしている	1	4	3	3	0	0	1

93%の回答者がすべての飼育猫の不妊手術をしているが、16頭以上飼育している方でオスのみ、一部のみ、と回答した数が2あり、動物病院に通っている意識の高い飼い主でも本結果があるのであれば、不妊手術をしないで猫を飼育している人はもっと多く、我々はもっと猫の多頭飼育者への不妊手術の徹底を促さないといけないのかもしれない。

猫

猫の行動のことで困っていることはありますか？（複数回答可）
困った行動を治したいと思ったことはありますか？



猫の行動のことで困っていることで多かったのは、嘔吐すること(15%)、次いでトイレの問題（9.3%）、ほかに爪とぎと猫同士の喧嘩が約8%ずつあった。その他の行動としては、PCの上に乗る、机に乗る、夜中に走り回るなどが挙げられた。困った行動があると考える人の中で308/643人がそれを治したいと回答している。

猫

トイレ以外の場所で排泄することがありますか？
トイレ以外での排泄がある猫に関してうかがいます。トイレ以外の場所での排泄はどのくらいの頻度ですか？

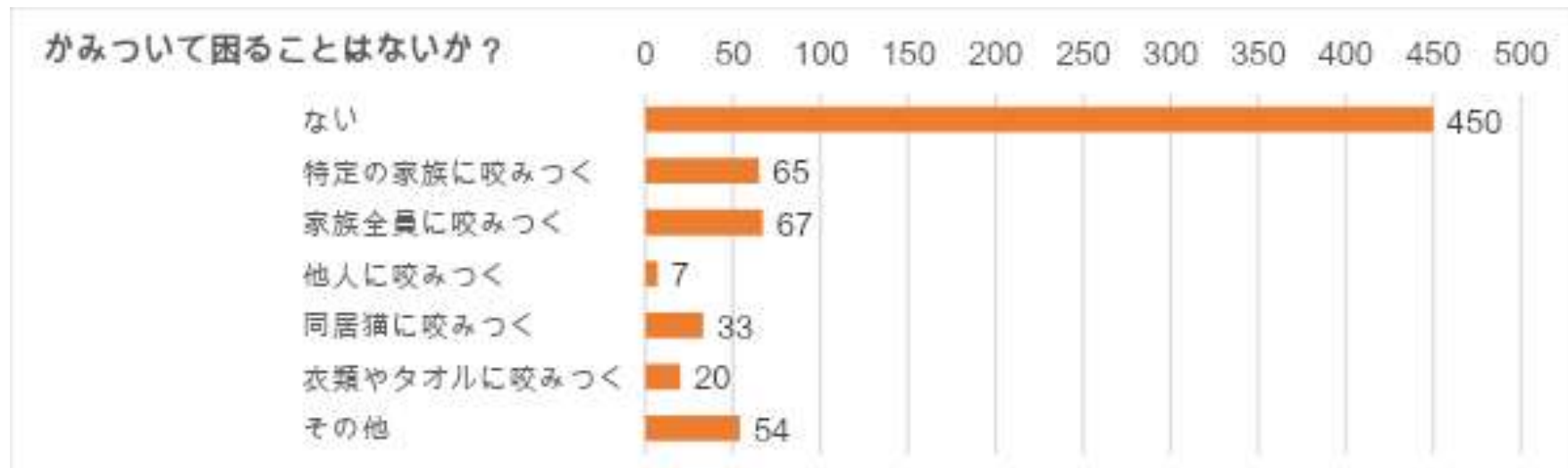
排泄問題の頻度



トイレ以外の場所で排せつする行動は、643名の回答者数のうち、214名(32%)が「ある」と回答しており、214名の中で39名(18%)が毎日トイレの外で排せつしている行動があると回答した。

猫

咬みついて困ることはありますか？（複数回答可）
猫に咬まれたり引っかかれて傷が腫れたことがありますか？
猫の困った行動が原因で猫を手放したいと思ったことはありますか？



咬みつく行動に関しては、ほとんどの回答者がないと答えたが、家族に対する攻撃性も少なくない。猫にかまれたり、引っかかれたりして傷が腫れたことのある人は回答者数の半分を超え、51%(328名)であった。問題行動が理由で猫を手放したいと考えたことのある人は、17名(3%)で、猫の行動のせいで手放したいとまで考えざるを得ない人が3%なので、比較的多くいることが分かった。

高齢者

どんなペットを飼っていますか？ あてはまるものを全て選んでください。

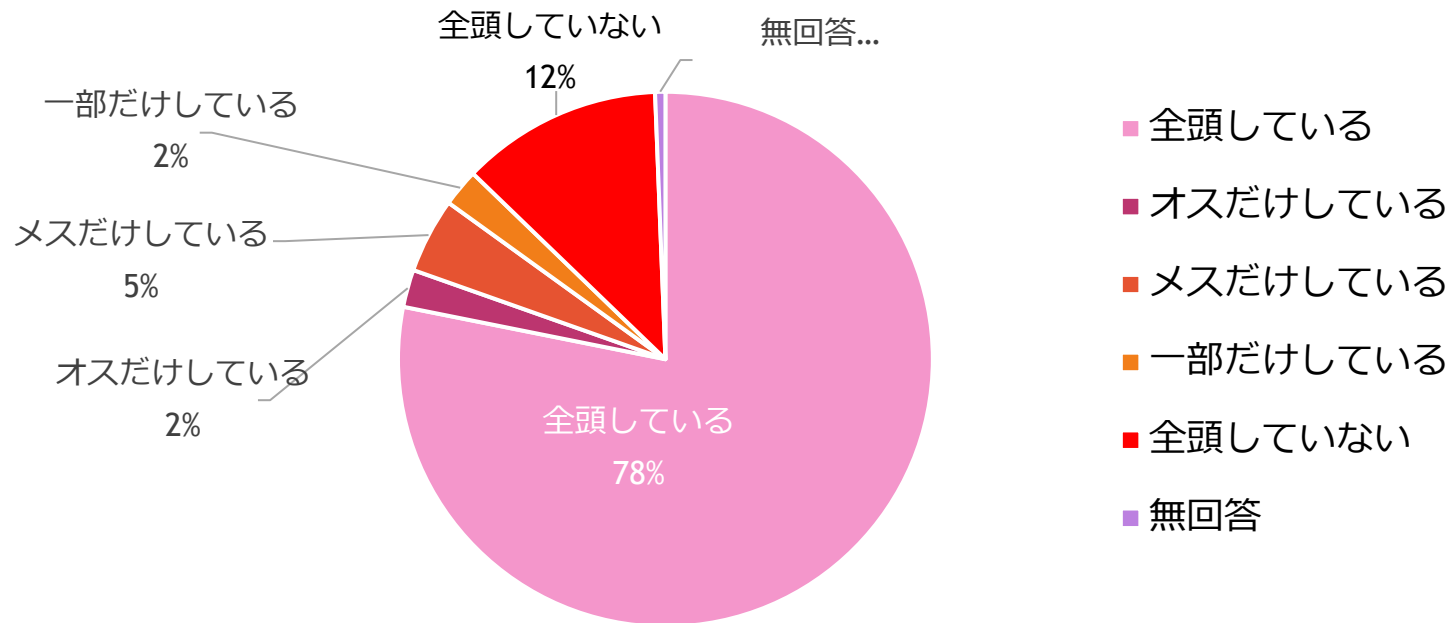
	猫0頭	猫1頭	猫 2 - 3 頭	猫4-5頭	猫6頭以 上	その他1 頭	その他 2-3頭
犬0頭	0	55	49	14	10	0	0
犬1頭	230	15	6	2	1	4	0
犬2-3頭	65	5	6	1	2	0	1
犬4-5頭	7	0	0	0	0	0	0
犬6頭以上	6	0	0	0	2	0	0
その他1頭	0	0	0	0	0	0	0
その他 2-3 頭	0	0	0	0	1	0	0

485名中285名は犬か猫を1頭しか飼育していないが、200名は複数頭飼育している。

高齢者

ペットの避妊・去勢はしていますか？

不妊手術

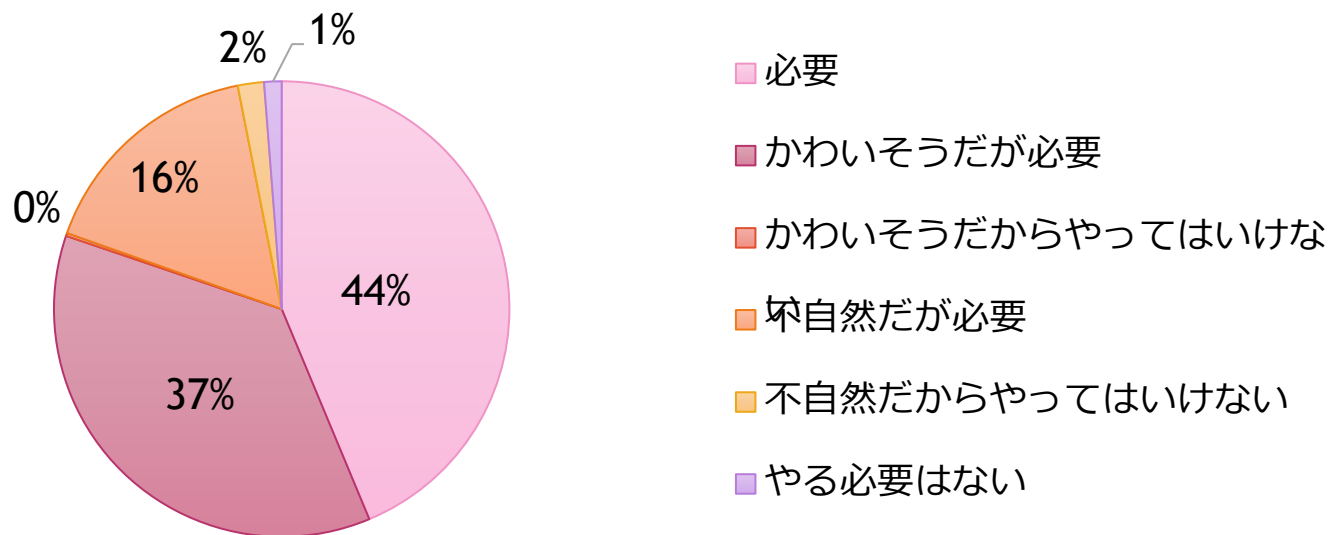


飼育動物の不妊手術に関して78%（379名）は全頭手術をしていると回答しているが、不妊手術を全頭にさせていない59名のうち、動物を複数頭飼育していて、全頭手術をしていない家庭は10件であった。

高齢者

犬と猫の避妊去勢手術についてどう思いますか？ 一番あてはまるものを一つ選んでください。

不妊手術についてどう思うか？

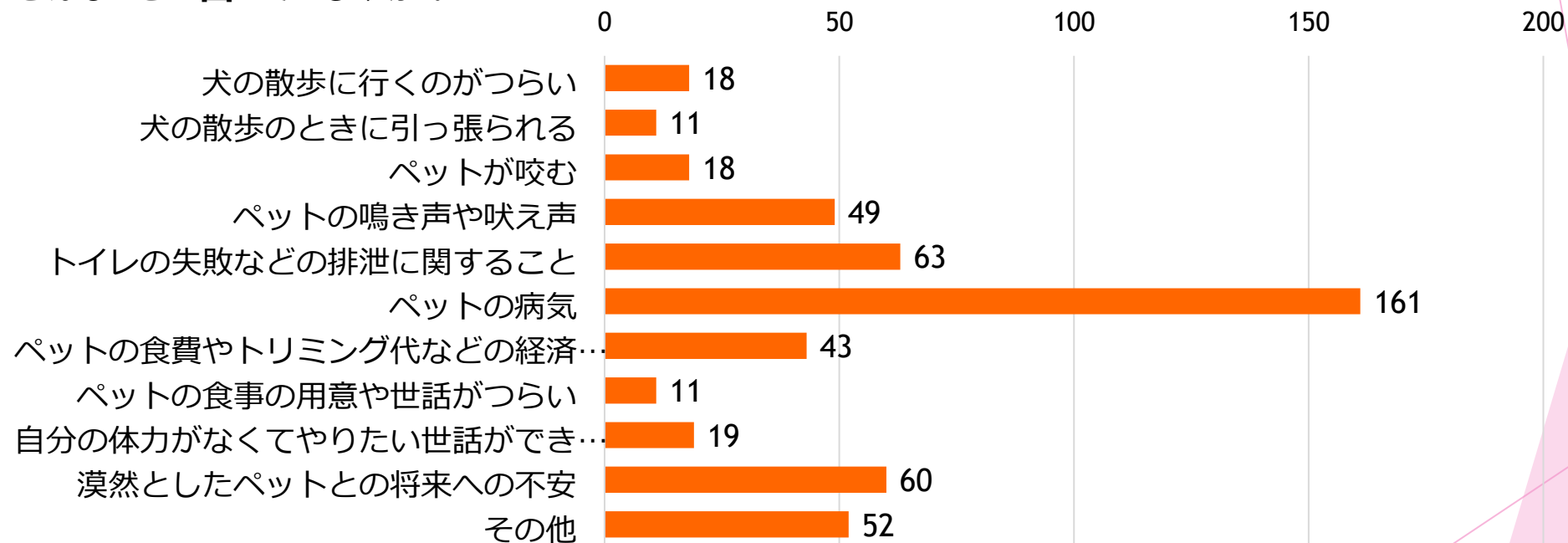


犬猫の避妊手術、去勢手術について問いでは、485名中212名(44%)は必要、177名(37%)はかわいそうだが必要、不自然だが必要が80名(16%)と答えている。それに対し、かわいそうだからやってはいけないが1名(0.3%)、不自然だからやってはいけないが9名(2%)、やる必要はないが6名(1%)と少数派だった。

高齢者

ペットを飼っていて困っていることはありますか？
困っていることのある方にうかがいます。どんなことに困っていますか？
あてはまるものを全て選んでください。

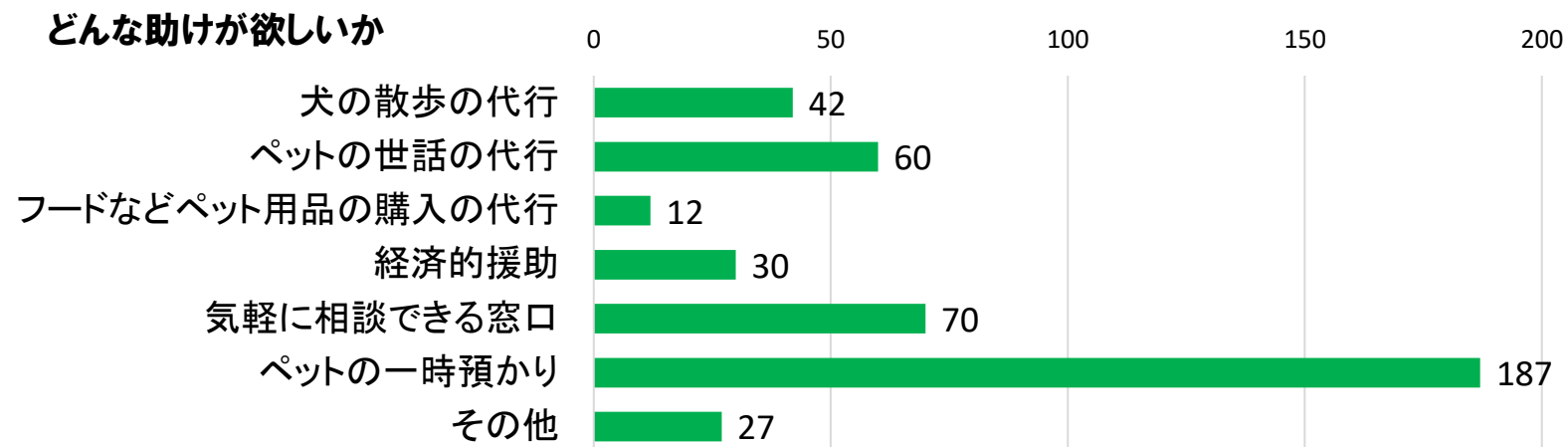
どんなことに困っていますか？



困っていることがある281名のうち半数以上の161名がペットの病気をあげている。そのほか病院へのアクセス、治療費、本人が病気になったらどうするか、が主な理由となっている。

高齢者

ペットを飼うことについて、助けが欲しいと思ったことはありますか？
ペットを飼うことについてどんな助けがほしいですか？ あてはまるものを
全て選んでください。



助けを必要としたことがあるか聞いたところ、485名中261名(54%)が「ある」と答えた。助けを欲している261名に聞いたところ、一番多くの方が回答したのが、「ペットの一時預かり」で86.5%を占めた(187名/216名)。具体的な意見として、信頼できるペットホテルや一時預かりしてくれるところが必要とされており、ほかにも動物病院に通院するための交通に関してのお困りが多く記載されていた。高齢者は急な病気や入院などでペットたちをどうすることもできなくなる問題を抱える可能性が高いため、一時預かりや動物病院などの送迎に関して、業界で考えていかないといけないかもしれない。

高齢者のペット飼育に関する調査報告書

調査の背景と目的

高齢者の動物飼育は健康寿命の延伸につながるとされる一方、体力や認知機能の衰えによる不適正飼育や、本人の入院などによる飼育継続困難など問題がある。

その解決には動物行政と福祉行政の連携が必要である。
今回の調査を踏まえ、動物行政と福祉行政の連携構築に向けた方策を検討した。

* 本調査は（株）ちばぎん総合研究所に委託して行った

参考：環境省

「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン
～社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて～」



(1) アンケート調査

① 調査の方法

アンケート調査はWEBにより実施した。WEBによるアンケートは、調査の目的に合わせて設問を設定し、メールや専用システムなどWEBを利用して設問を配信・回収する仕組みである。本調査では、株式会社クロス・マーケティングのWEBアンケートシステムを利用した。

② 調査の対象及び回収状況

	対 象	対象者数	回収数	回収率
1	都内の地域包括支援センター及び訪問介護事業所	1,036	388	37.5%
2	都内自治体の高齢者担当部署	62	32	51.6%
3	都内自治体の動物担当部署	62	43	69.4%
4	東京都動物愛護相談センター	37	31	83.8%

③ 調査の時期

上記1及び2:2021年12月15日～2022年1月31日

上記3及び4:2022年1月15日～2022年1月31日

(2) 都内自治体等ヒアリング調査

① 調査の対象及び方法

アンケート調査において、ヒアリング調査にも協力する旨の回答を得られた都内の自治体等を訪問し、ヒアリングを行った。

	対 象	対象 自治体数	うち 区部	うち 市町村部
1	都内自治体の高齢者担当部署	6	3	3
2	都内自治体の動物担当部署	10	6	4
3	地域包括支援センター	3	2	1

② 調査の時期

2022年8月1日～2022年9月9日

都内自治体における事例

自治体等	内容
新宿区保健所 衛生課	庁内連携及び官民連携によりペット問題に対応
新宿区 高齢者支援課	福祉職のスキル向上に努めるとともに、様々な工夫により関係機関の円滑な連携を実現
墨田区保健所 生活衛生課	区報やYouTube 動画、Facebook など、様々な方法により啓発を推進
大田区保健所 生活衛生課 大田区 高齢福祉課	動物担当部署と高齢者担当部署が連携してペット問題に対応。高齢者の周囲の人への啓発にも積極的
足立保健所 生活衛生課	「動物愛護相談支援窓口」を設置し、ペット問題への対応力を大幅に拡充
足立区 地域包括ケア推進課	健康寿命延伸に向けて高齢者宅を訪問し予防的支援に取り組む
足立区地域包括支援センターあだち	動物愛護関連団体の理事を務めるセンター長が地域のペット問題に対応
江戸川保健所 生活衛生課	10 年以上前から地域猫活動に注力。ペット問題は庁内・庁外の連携により対応
立川市 高齢福祉課	高齢者のペット問題に官民連携で対応する中、ペットのエンディングノートを作成
町田市保健所 生活衛生課	保健所とボランティアが信頼関係を構築し、協力してペット問題に対応
小平市 高齢者支援課	住民による高齢者の通いの場づくりが拡大。市は高齢者の見守り等で多様な取組を推進

(3) 先進自治体調査

① 調査の対象及び方法

文献調査により、動物行政と福祉行政が効果的な部署間連携を実現している自治体として抽出した神奈川県川崎市を訪問し、ヒアリングを行った。

		対 象
1	神奈川県 川崎市 健康福祉局	保健医療政策部(生活衛生担当)
2		地域包括ケア推進室

② 調査の時期

2022年8月10日

(4) 有識者ヒアリング調査

① 調査の対象及び方法

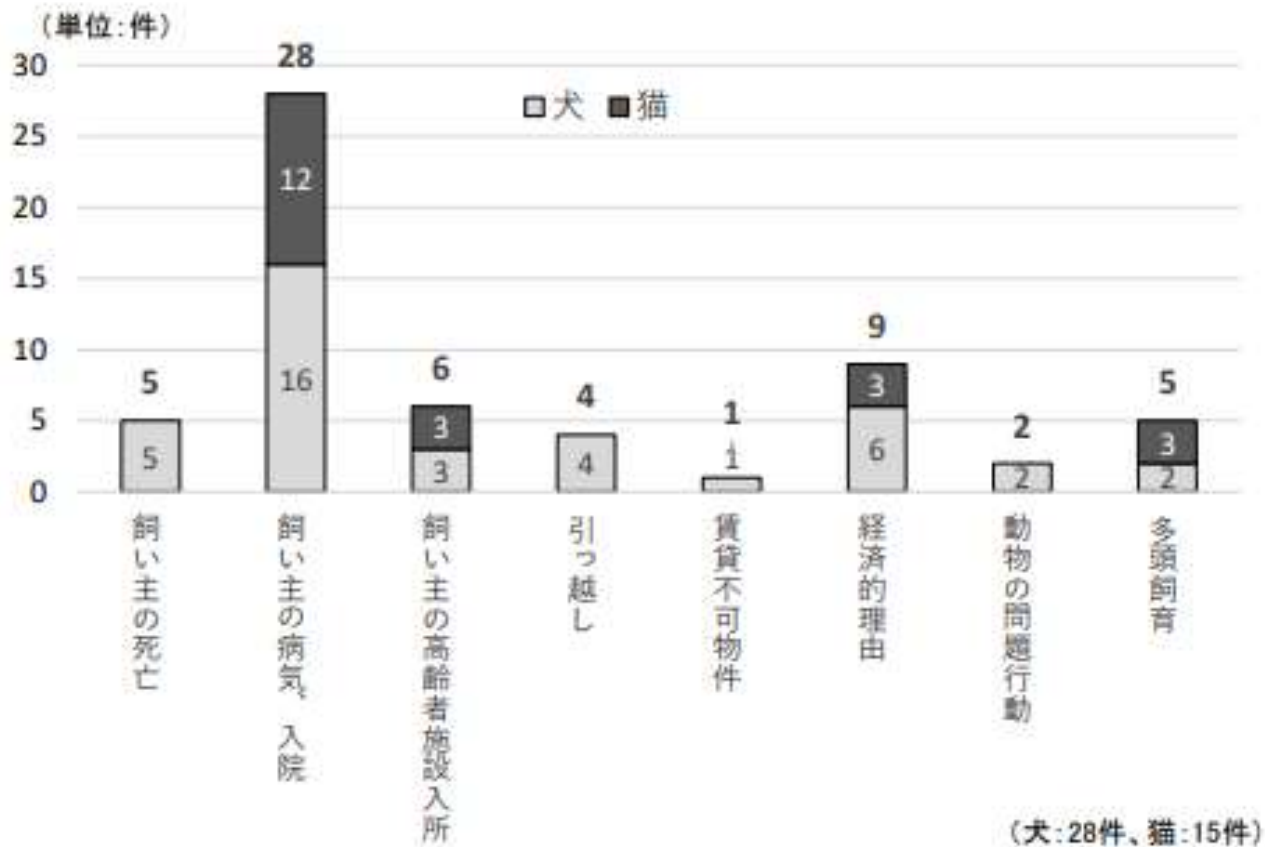
文献調査により、高齢者の飼育するペットに関する問題について造詣の深い有識者として選定した以下の3者を訪問し、ヒアリングを行った。

	対 象
1	横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授 安藤 孝敏 氏
2	成城大学法学部 教授 打越 綾子 氏
3	環境省 自然環境局 総務課 動物愛護管理室

② 調査の時期

2022年10月24日～2022年11月10日

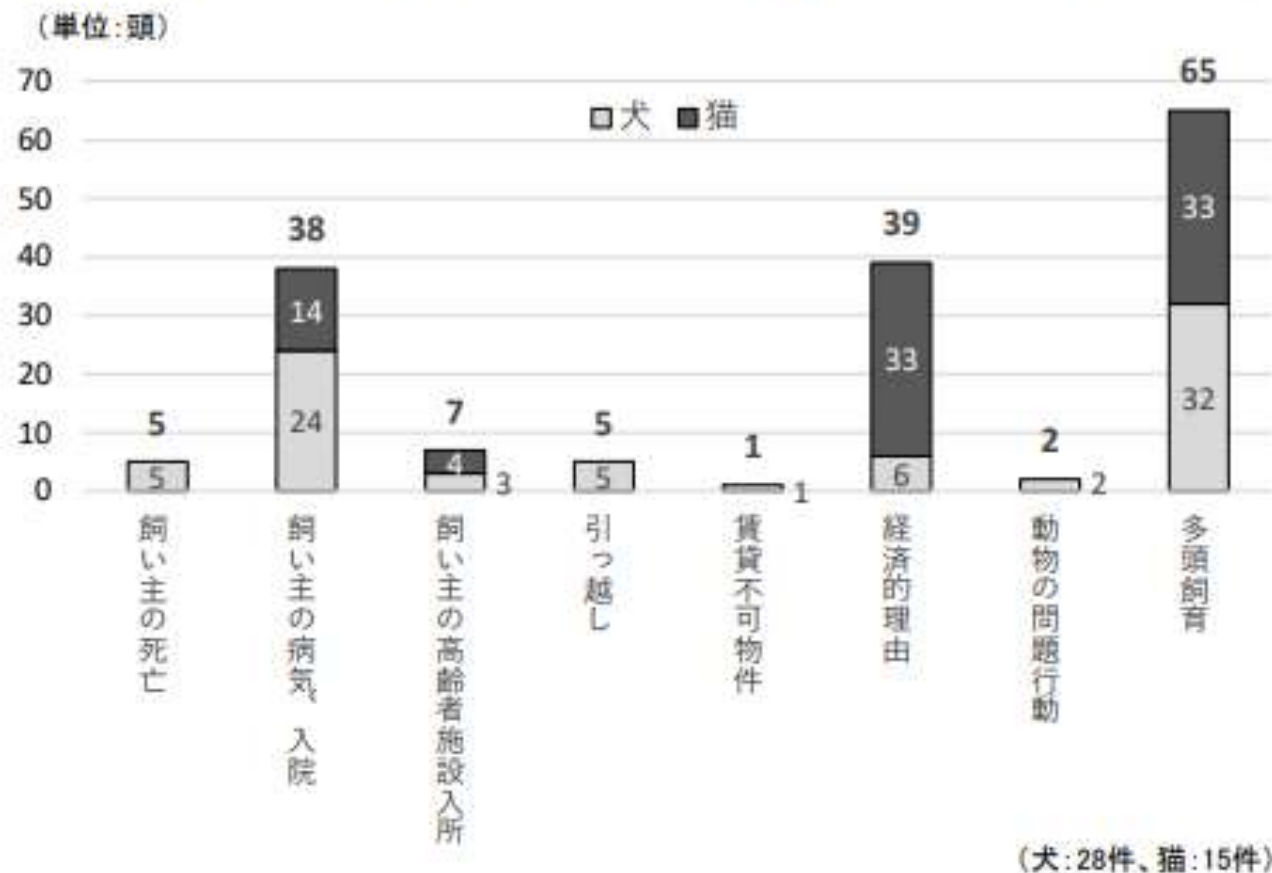
図表 6 東京都動物愛護相談センターにおける飼い主からの犬及び猫の引取理由(件数、2017年度)



注:保健所設置市である八王子市及び町田市を除く
複数回答可のため合計は引取件数を上回っている

(出典)東京都福祉保健局「第7回諮問 動物愛護管理審議会第1回小委員会」参考資料2を基に作成

図表 7 東京都動物愛護相談センターにおける飼い主からの犬及び猫の引取理由(頭数、2017年度)



注:保健所設置市である八王子市及び町田市を除く
複数回答可のため合計は引取件数を上回っている

(出典)東京都福祉保健局「第7回諮問 動物愛護管理審議会第1回小委員会」参考資料2を基に作成

図表 13 東京都動物愛護管理推進計画における数値目標と達成状況

指標	2012 年度実績値	目標 (2023 年度)	2019 年度実績値 (2012 年度比)
動物の引取数	2,866 頭	15%削減	458 頭(84.0%削減)
動物の致死処分数	2,404 頭	20%削減	308 頭(87.2%削減)
犬の返還・譲渡率	79.4%	85%以上に増加	97.7%
猫の返還・譲渡率	17.1%	20%以上に増加	44.0%

(出典)東京都福祉保健局「東京都動物愛護管理推進計画(2021 年 3 月改定)」

都内の地域包括支援センター及び訪問介護事業所を対象としたアンケート

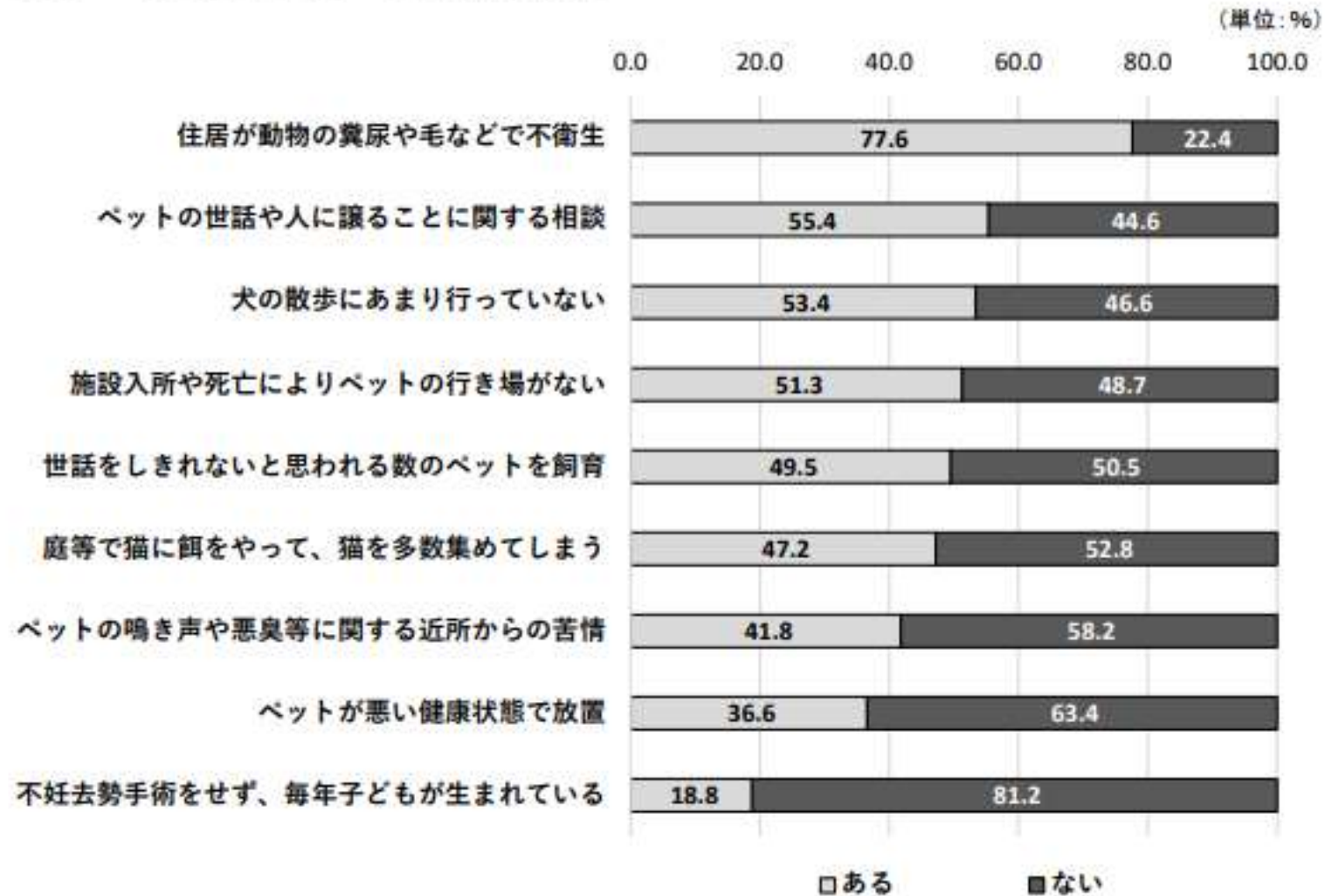
訪問先の高齢者宅では、約何割のご家庭でペットが飼われていると思いますか。大体の感覚でお答えください。【1つ選択】

図表 34 ペット飼育割合

(単位:%)

	合計	地区		所属		従業員数		
		区部	市町村部	地域包括支援センター	訪問介護事業所	5人以下	6~10人	11人以上
n	388	263	125	242	146	70	232	86
0~1割	62.9	64.3	60.0	52.5	80.1	72.9	56.0	73.3
2~4割	35.1	32.7	40.0	44.6	19.2	25.7	41.4	25.6
5~8割	1.5	2.3	0.0	2.5	0.0	1.4	2.2	0.0
9割以上	0.5	0.8	0.0	0.4	0.7	0.0	0.4	1.2

図表 35 訪問先におけるペットに関する問題

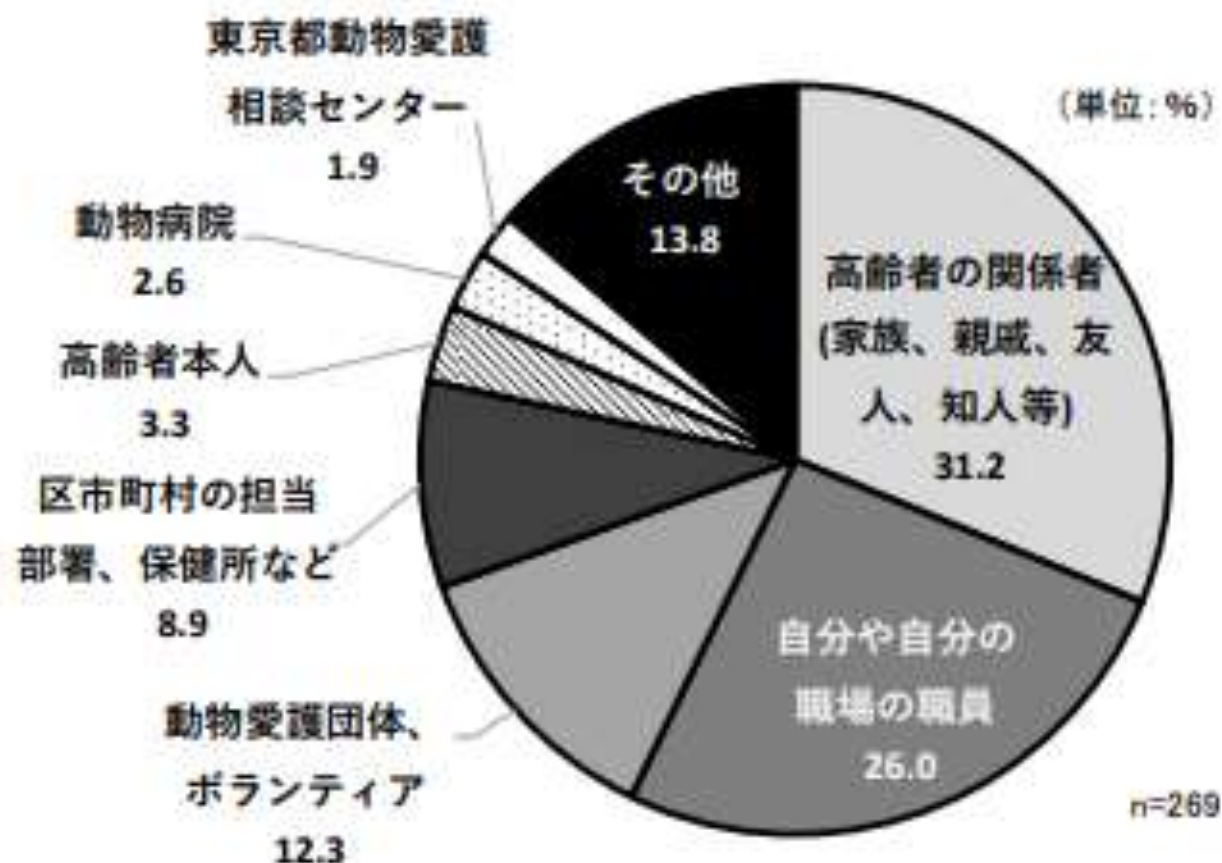


図表 37 ベットに関する問題に遭遇したときの相談先

(単位:%)

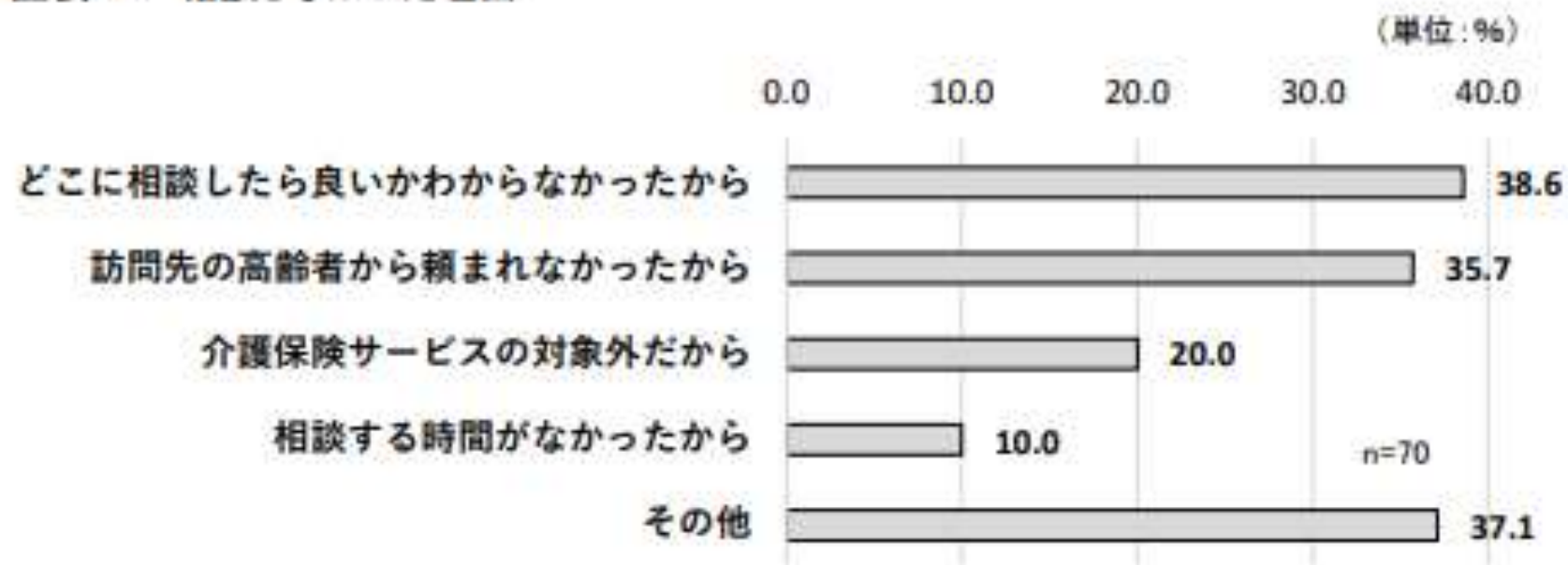
	合計	地区		所属		従業員数		
		区部	市町村部	地域包括 支援 センター	訪問介護 事業所	5人以下	6~10人	11人以上
n	289	171	98	184	85	41	168	60
職場の上司や同僚	49.4	53.2	42.9	50.0	48.2	58.5	47.0	50.0
高齢者の別居の家族や親戚	42.0	42.1	41.8	43.5	38.8	51.2	41.7	36.7
動物愛護団体、ボランティア	39.0	38.6	39.8	51.6	11.8	31.7	47.6	20.0
保健所など区市町村の高齢者福祉担当部署	31.6	34.5	26.5	39.7	14.1	24.4	35.7	25.0
高齢者と同居する家族	30.5	32.7	26.5	30.4	30.6	39.0	30.4	25.0
保健所など区市町村の動物担当部署	29.4	32.7	23.5	40.2	5.9	24.4	33.3	21.7
東京都動物愛護相談センター	21.9	22.2	21.4	31.5	1.2	19.5	26.8	10.0
動物病院	18.6	18.1	19.4	23.9	7.1	12.2	21.4	15.0
社会福祉協議会、民生委員	14.5	11.1	20.4	19.6	3.5	19.5	15.5	8.3

図表 38 問題の解決に向けて中心に対応した個人・組織



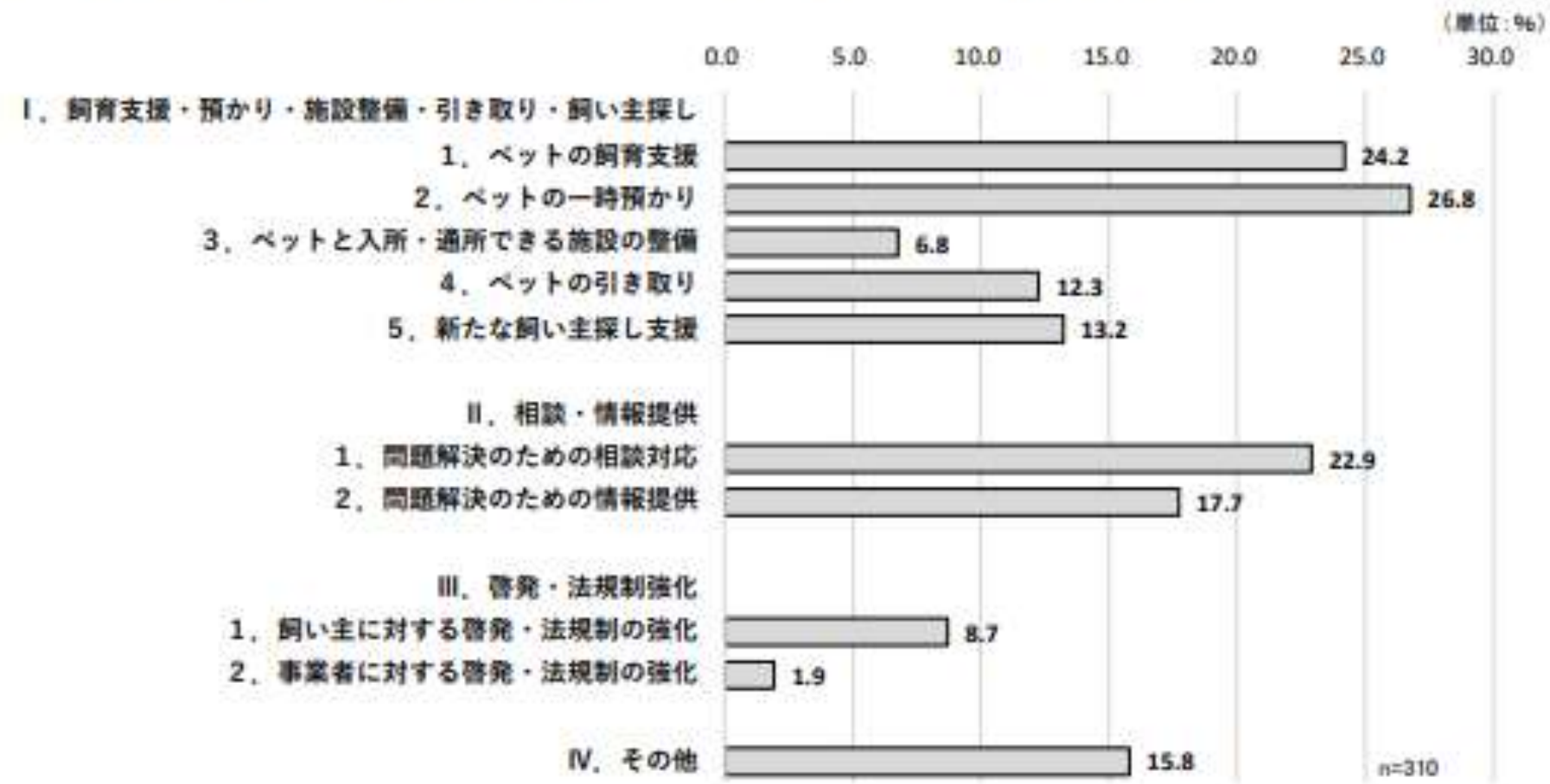
(出典) 都内の地域包括支援センター及び訪問介護事業所を対象としたアンケート

図表 39 相談しなかった理由



(出典) 都内の地域包括支援センター及び訪問介護事業所を対象としたアンケート

図表 40 高齢者にペットに関する問題が生じたとき、どのような支援があると良いか



図表 41 高齢者にペットに関する問題が生じたとき、どのような支援があると良いか(記入内容、一部を抜粋、n=310)

※1人が複数の項目にわたる意見を記入している場合は、1つのセルに全ての記入内容を掲載している。回答者が入力した文章を、趣旨を損なわないよう配慮し修正・要約していることがある。

意見		地区	所属
I	1. ペットの飼育支援		
	ペットの世話や一時保護などの支援があると良い。行政には、地域で活動している動物愛護団体やボランティアの情報の取りまとめをお願いしたいです。	区部	包括センター
	散歩、餌やり、排せつ物の処理と清掃を安価またはボランティアで行ってくれるサービスがあるとよい。施設でもペットが飼えるようにしたらよいと思う。高齢者の癒し、心が豊かになる時間を少しでも持ってほしい。	区部	包括センター
	事前に助成制度を利用して不妊手術を受けてもらうように情報提供もしたが、高齢者に認識や理解を得るのが困難な場合があり、伝えるだけでは動けない事例が多くある。また手術費用面でも近隣の動物病院は割高で、安価な病院は遠方であり、本人や家族のみで行くことや費用負担が難しい場合もある。よって多職種多機関で飼い主や家族へ包括的に支援することが必要と思われる。	区部	包括センター

都内自治体の高齢者担当部署を対象としたアンケート

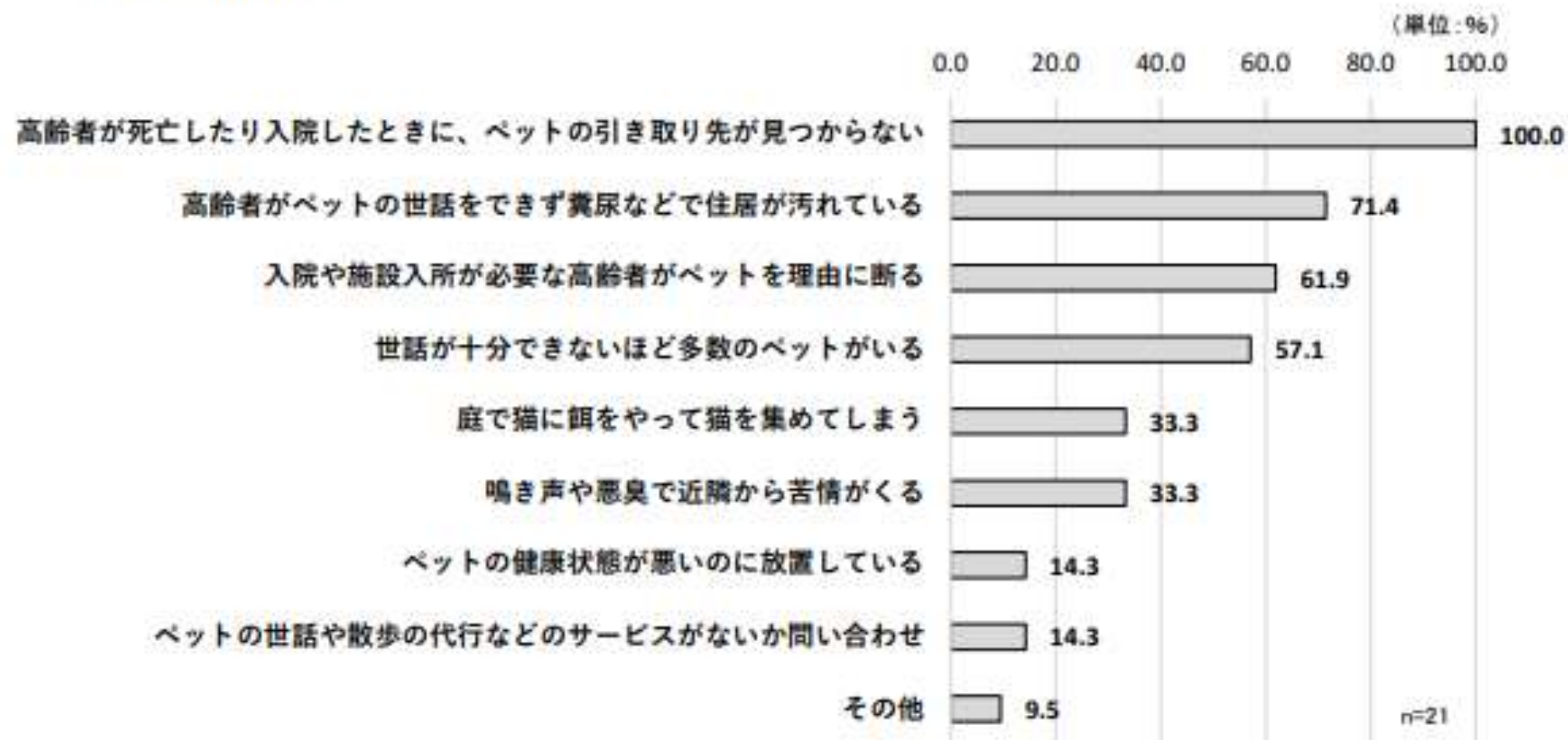
貴部署に寄せられる高齢者の相談で、ペットが関与する事案はありますか。【1つ選択】

図表 42 高齢者の相談で、ペットが関与する事案があるか

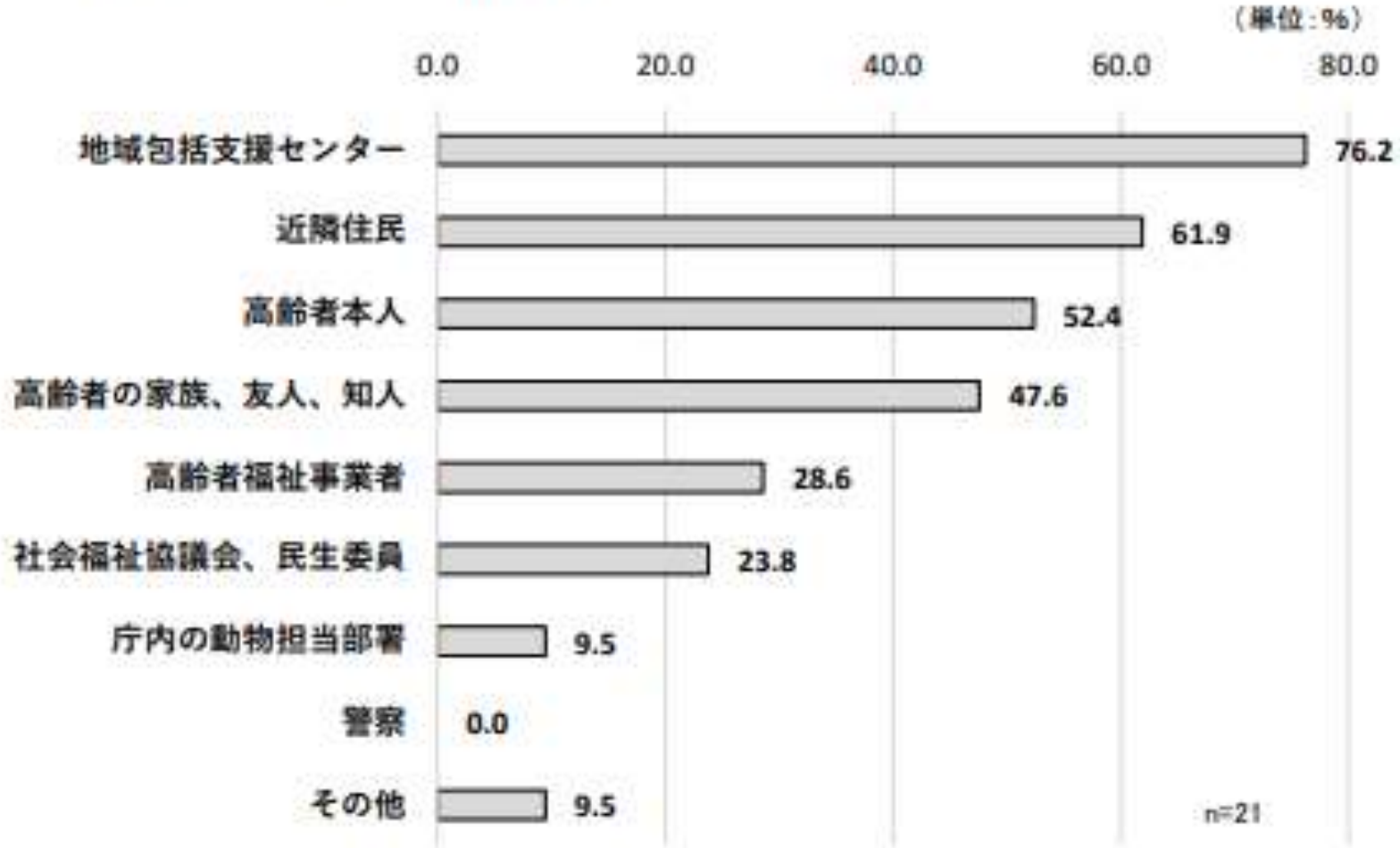
(単位:%)

	合計	地区	
		区部	市町村部
n	32	15	17
ある	65.6	60.0	70.6
ない	34.4	40.0	29.4

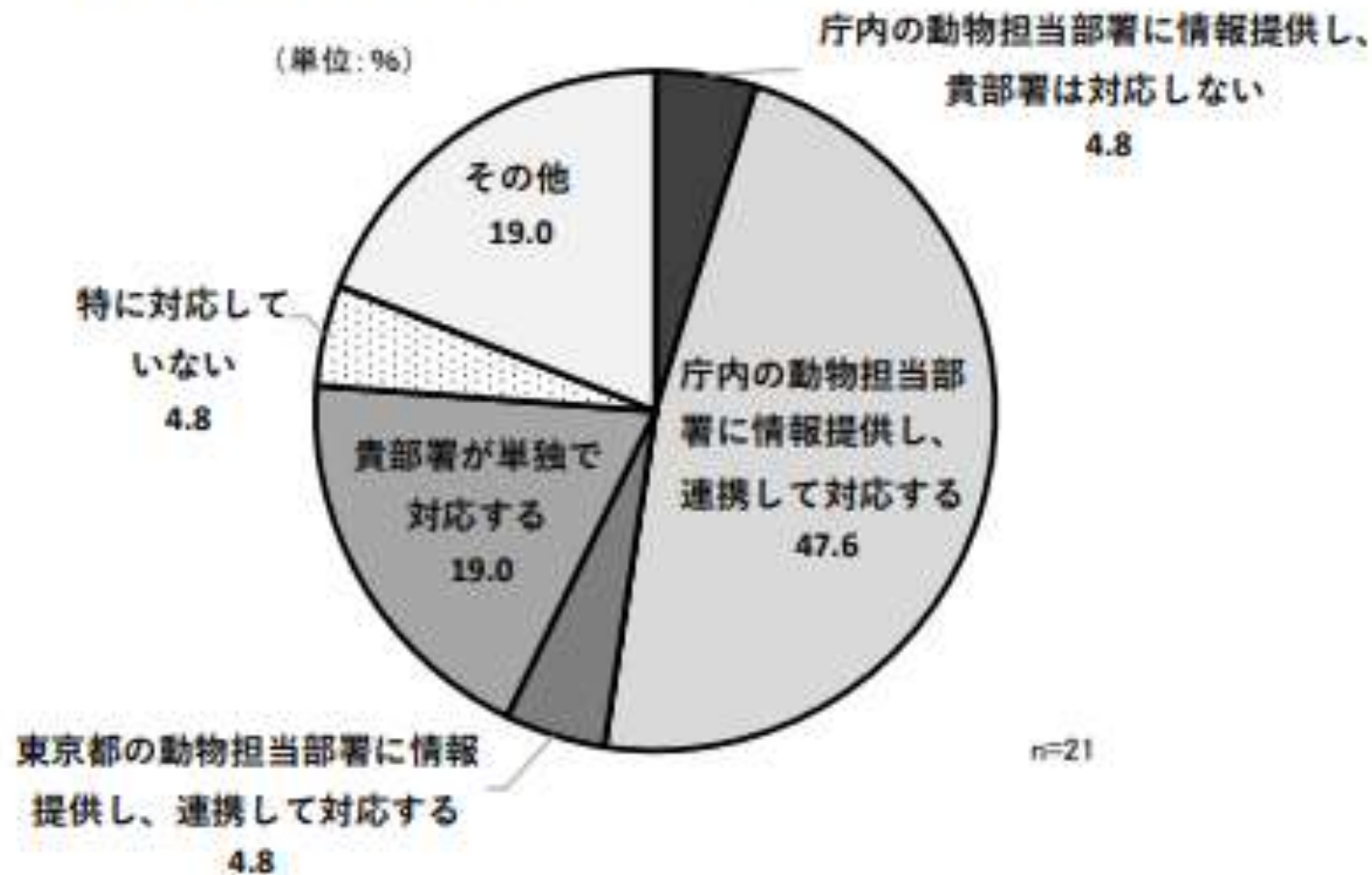
図表 43 相談内容



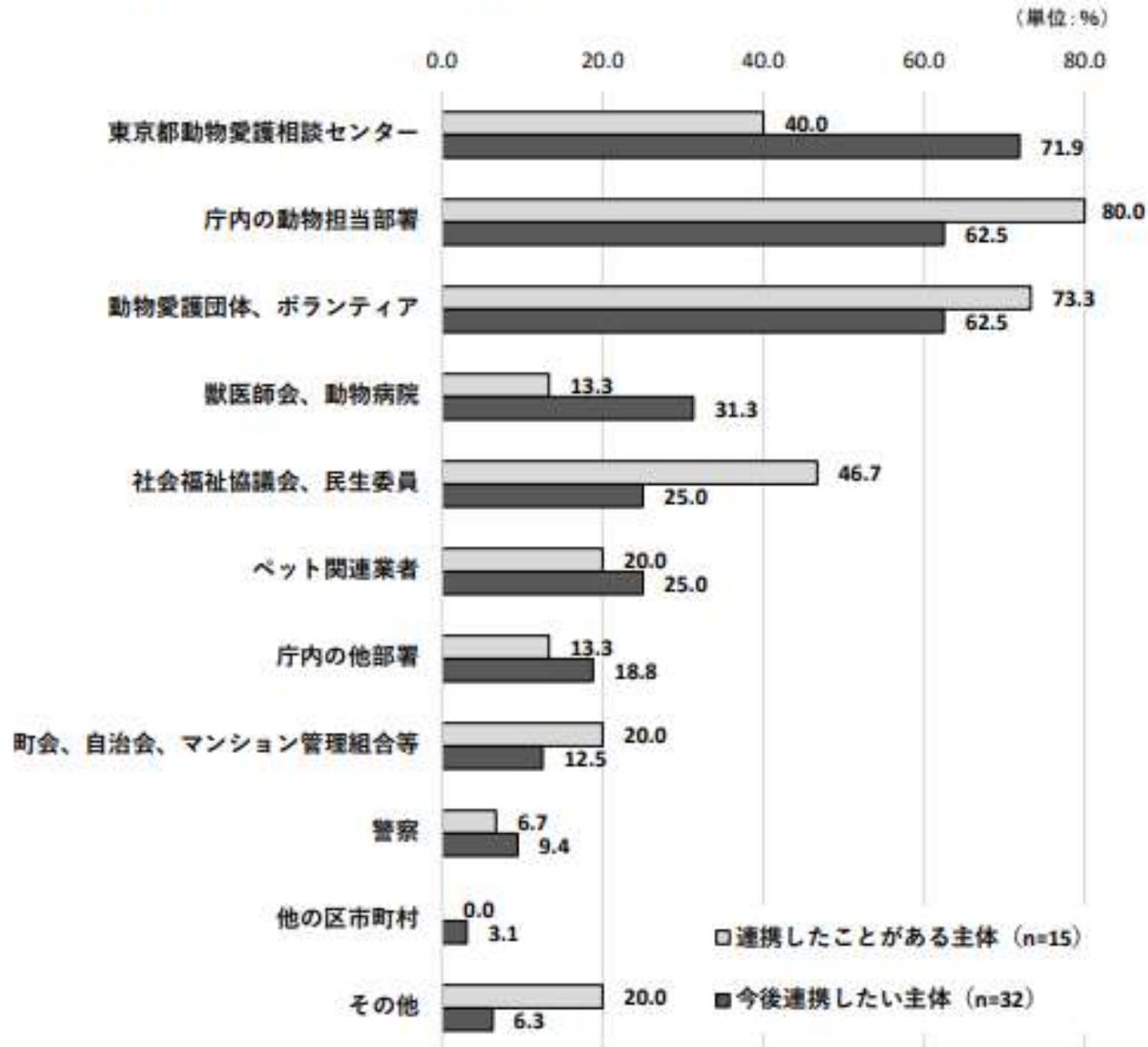
図表 44 どのような人から相談が寄せられるか



図表 45 相談が寄せられたときに、ペットに関してどのように対応しているか

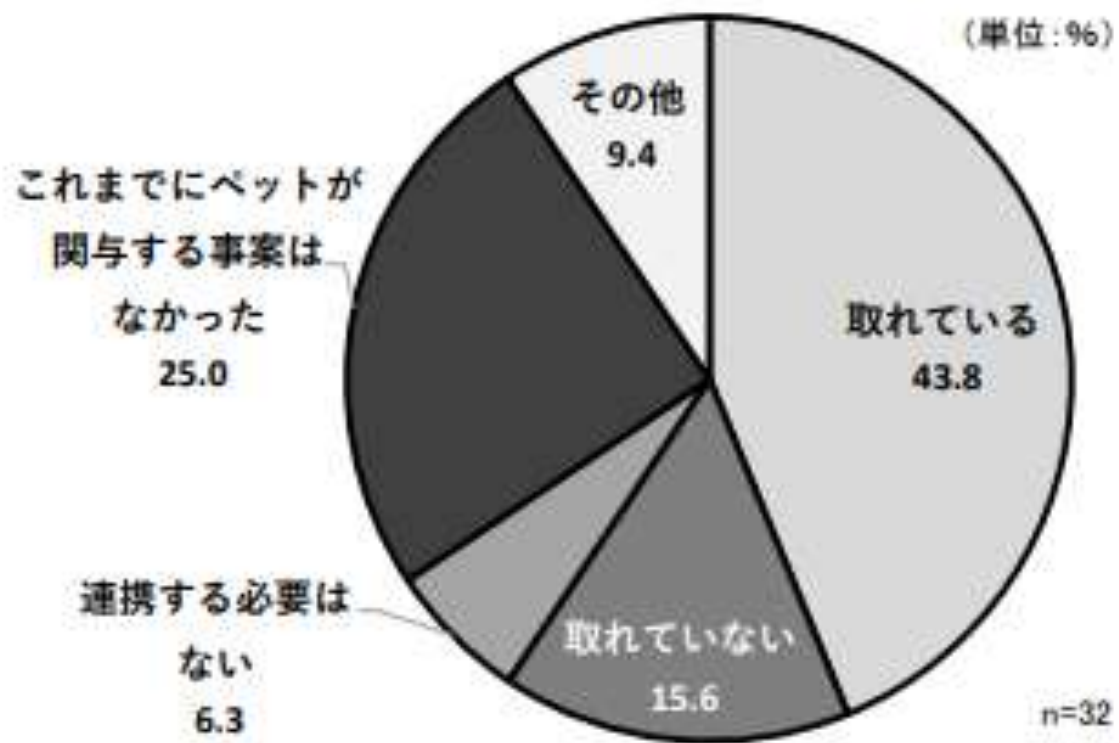


図表 46 連携したことがある主体・今後連携したい主体



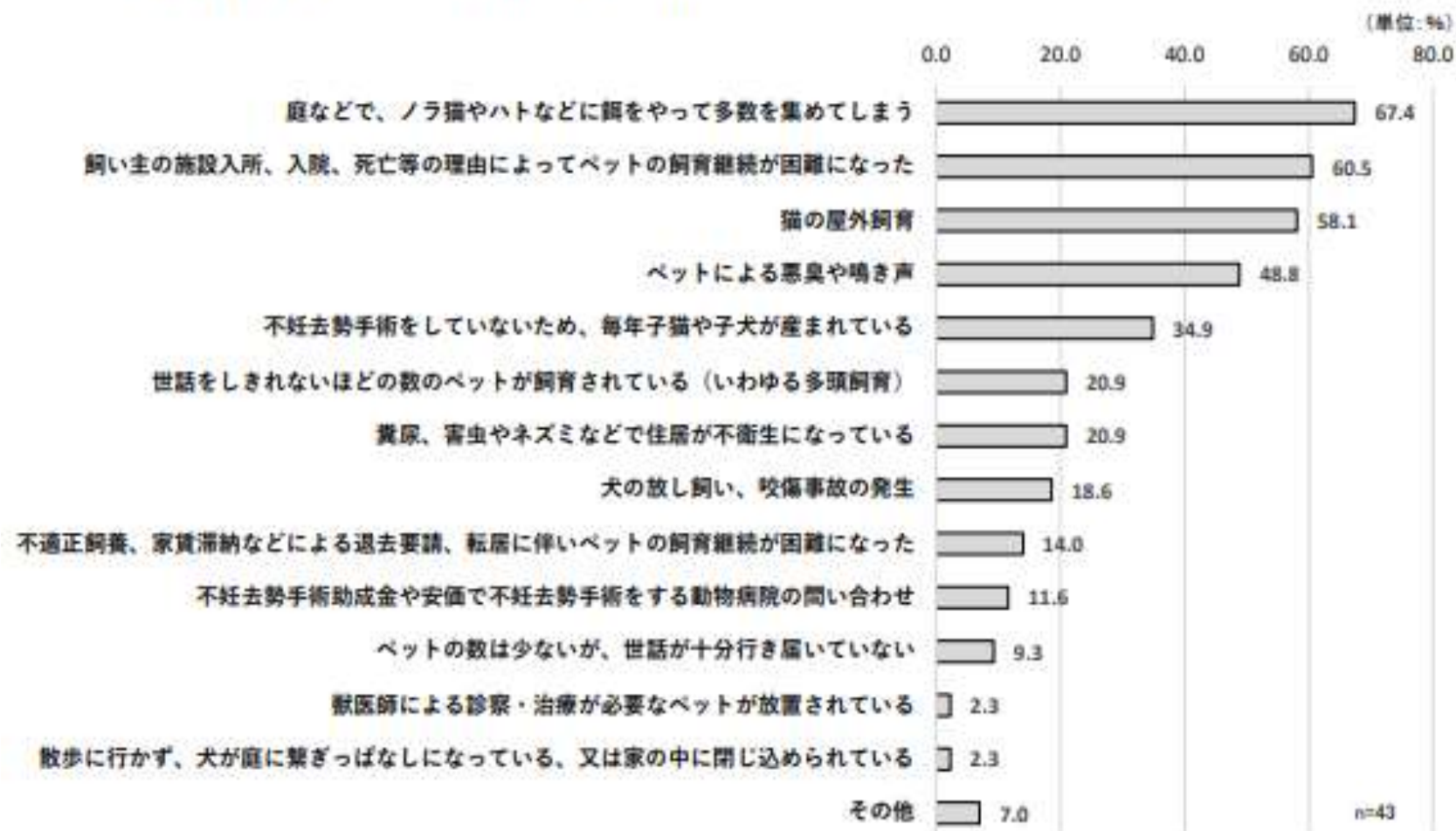
高齢者の相談でペットが関与する事案の解決にあたり、貴部署は庁内の動物担当部署と連携が取れていますか。[1つ選択]

図表 47 動物担当部署との連携

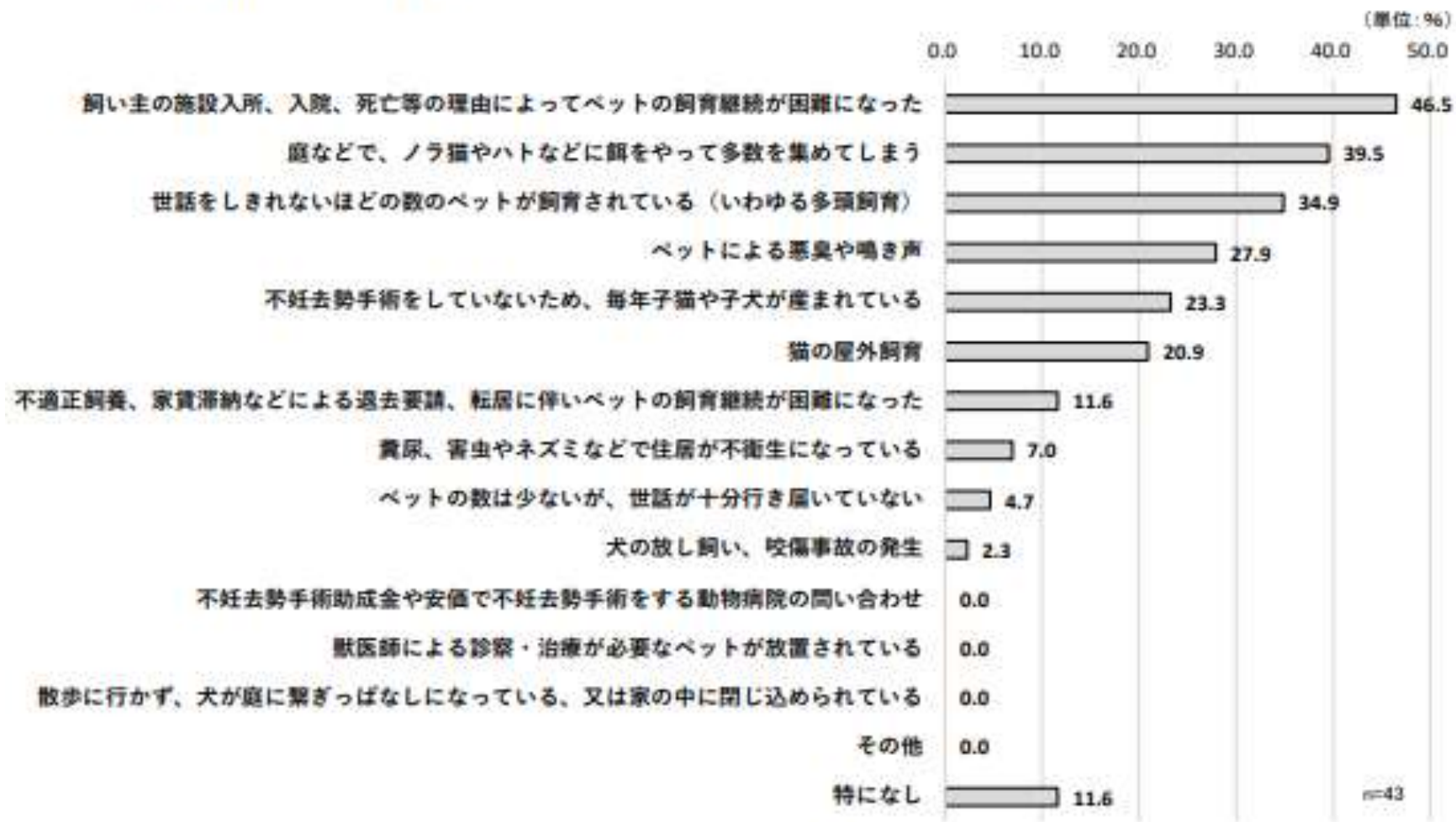


都内自治体の動物担当部署を対象としたアンケート

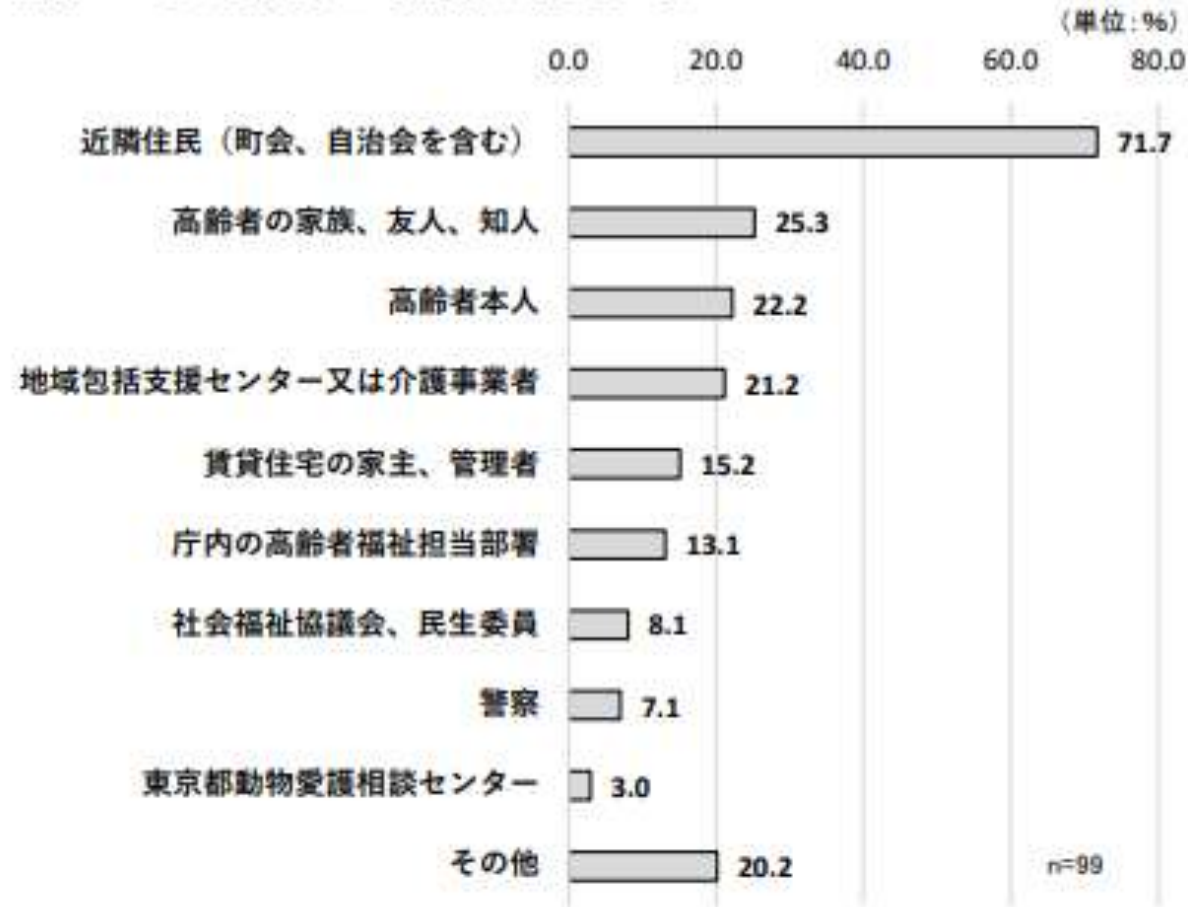
図表 50 高齢者に関わる動物の相談で多いもの



図表 51 特に対応に苦慮しているもの



図表 52 どのような人から相談が寄せられるか

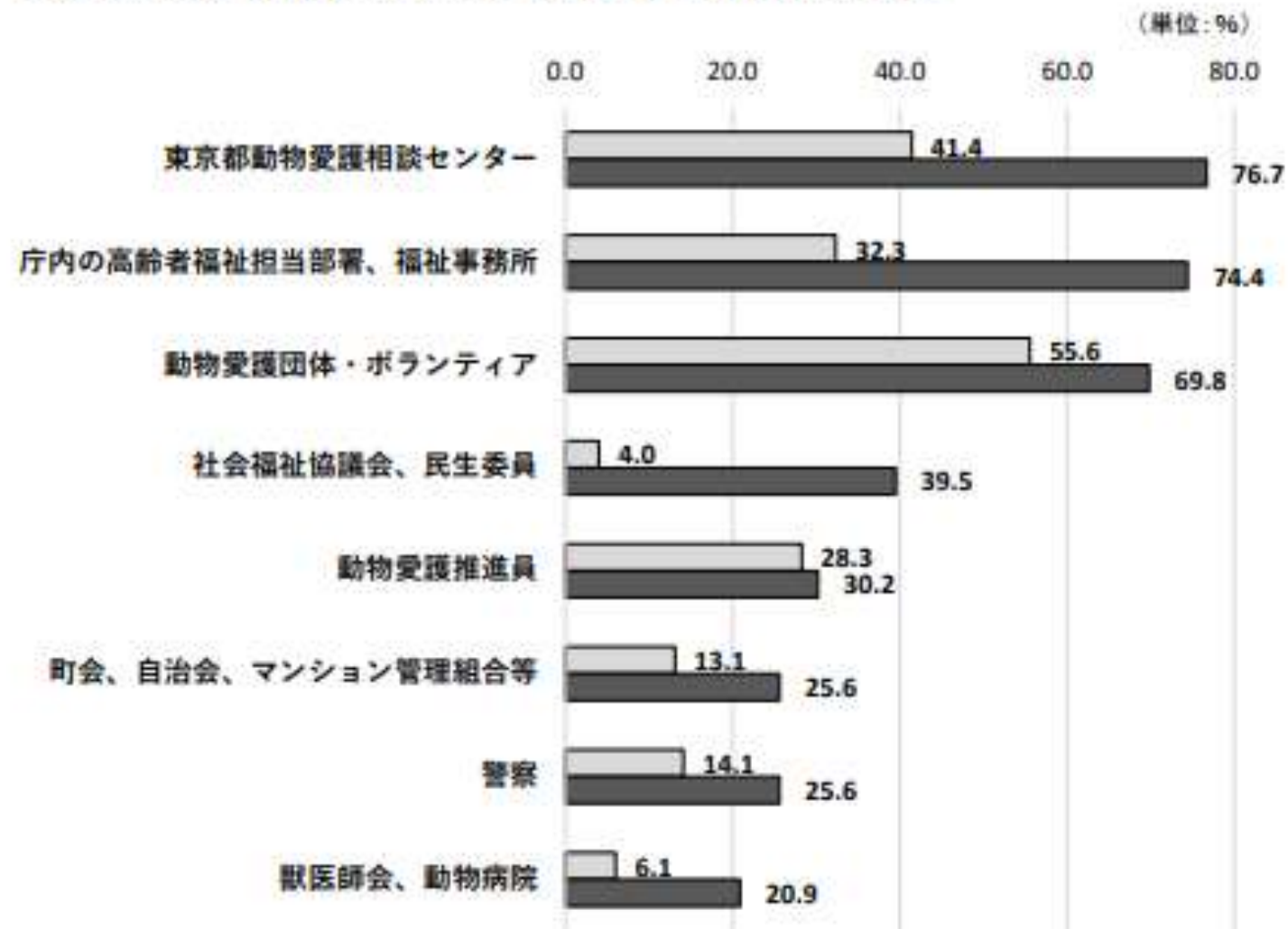


■「その他」の記入内容(20件)

動物愛護団体・ボランティア(4件) / 地域猫ボランティア(3件) / 福祉事務所(2件) / 後見人(1件)

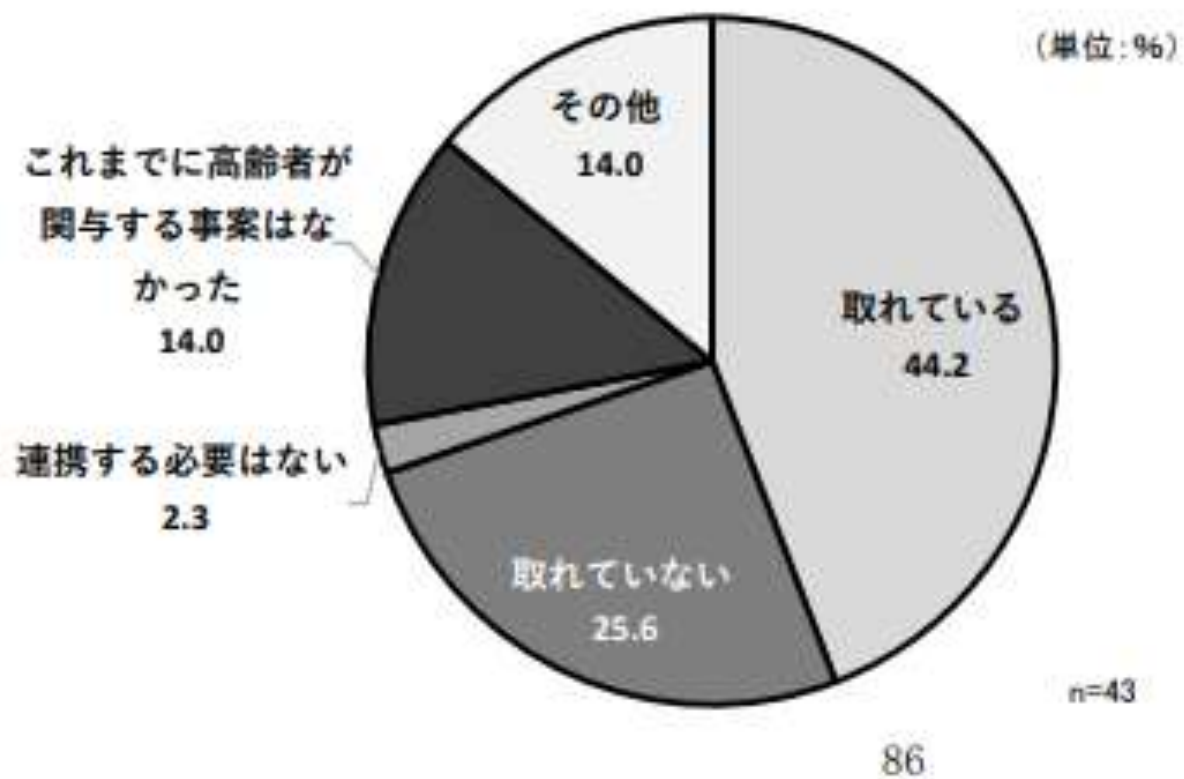
担当部署で対応(1件) / 現地パトロール中に出くわした(1件) / 該当なし、高齢者に関わる動物の相談がない為等(8件)

図表 53 連携を相談したことがある主体・今後連携したい主体

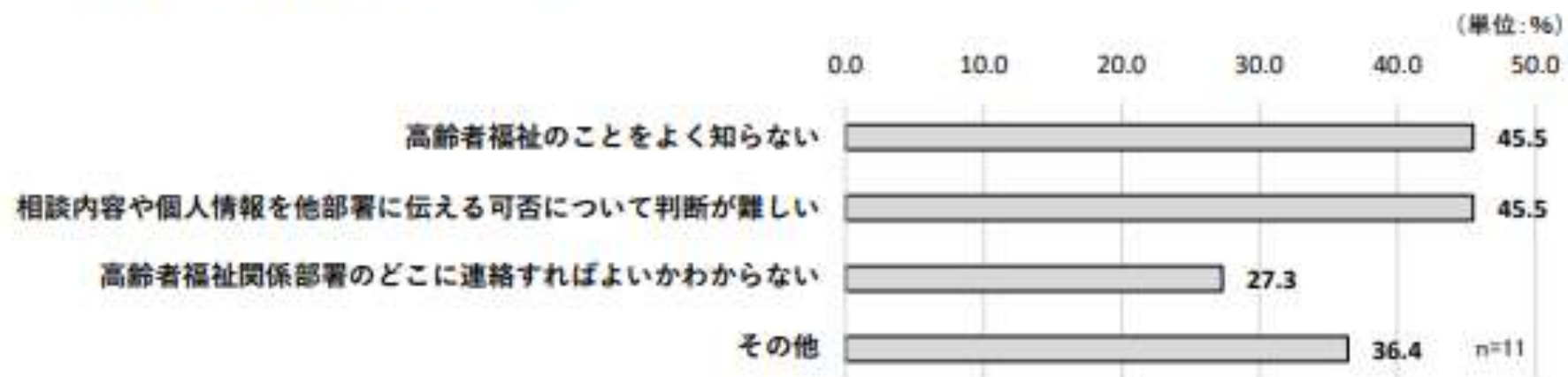


高齢者の相談でペットが関与する事案の解決にあたり、貴部署は庁内の高齢者福祉担当部署と連携が取れていますか。[1つ選択]

図表 54 高齢者福祉担当部署との連携



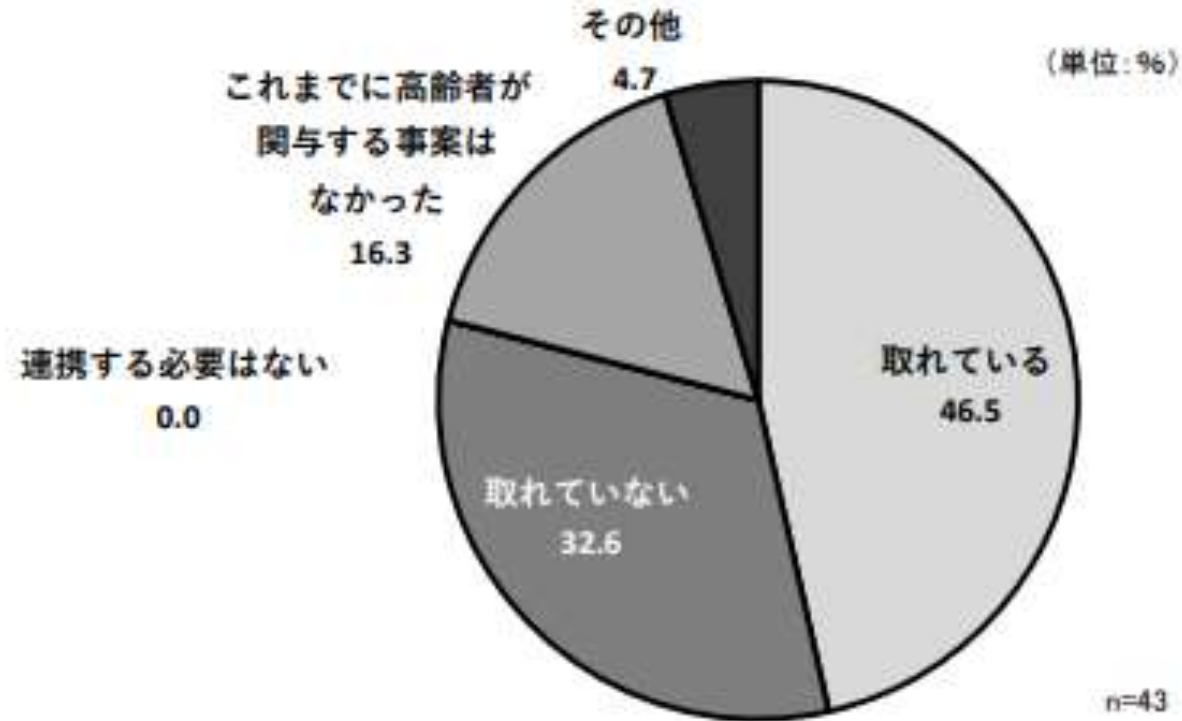
図表 56 連携が取れていない要因



東京都動物愛護相談センターとの連携

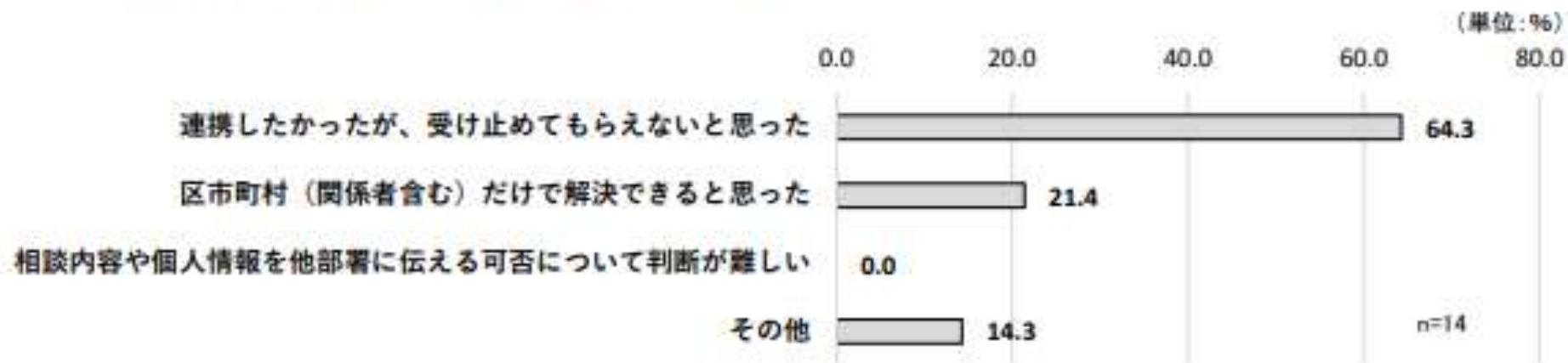
高齢者の相談でペットが関与する事案の解決にあたり、貴部署は東京都動物愛護相談センターと連携が取れていますか。[1つ選択]

図表 58 東京都動物愛護相談センターとの連携



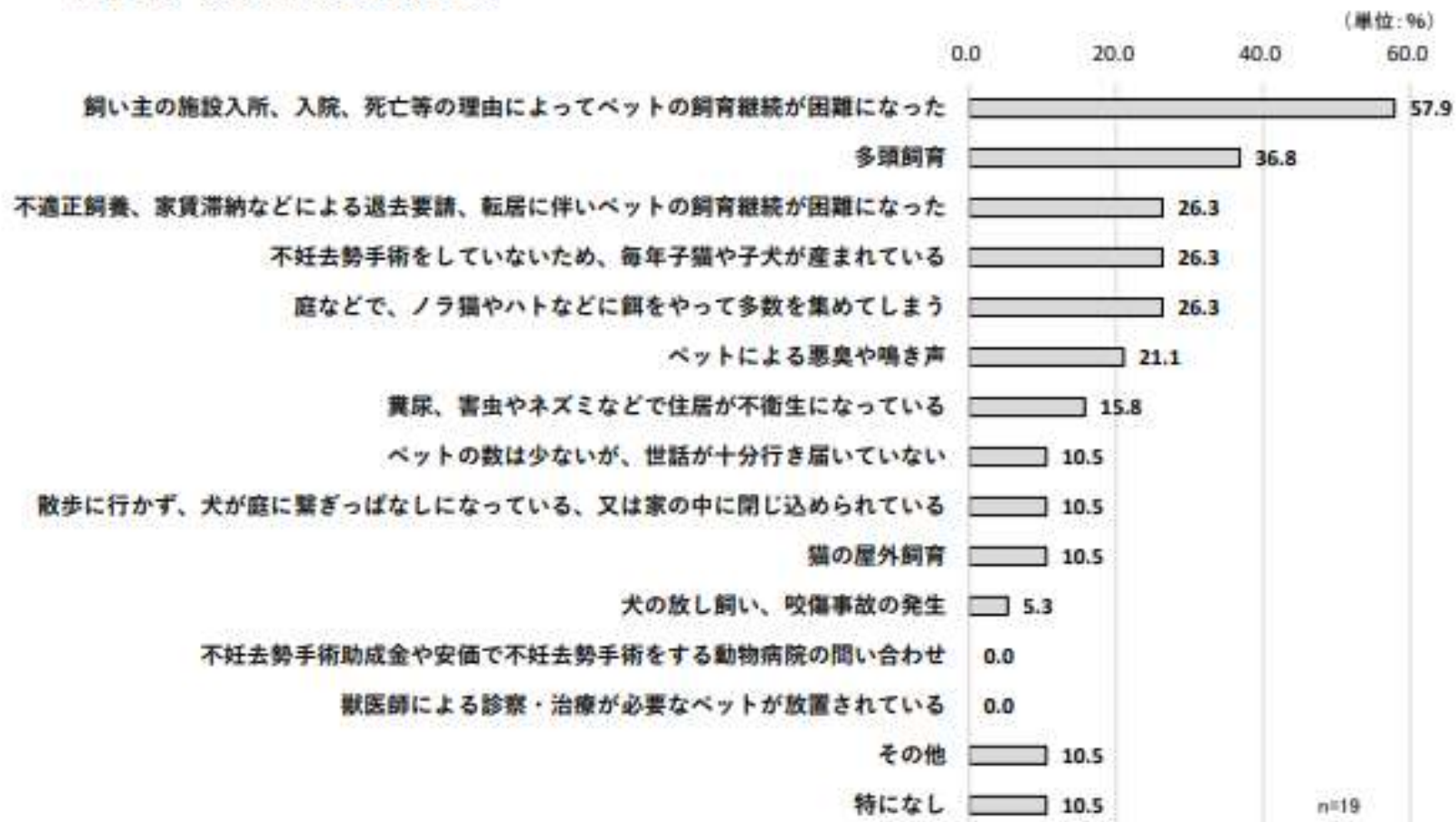
東京都動物愛護相談センターとの連携

図表 60 連携を取れなかった・取らなかった要因

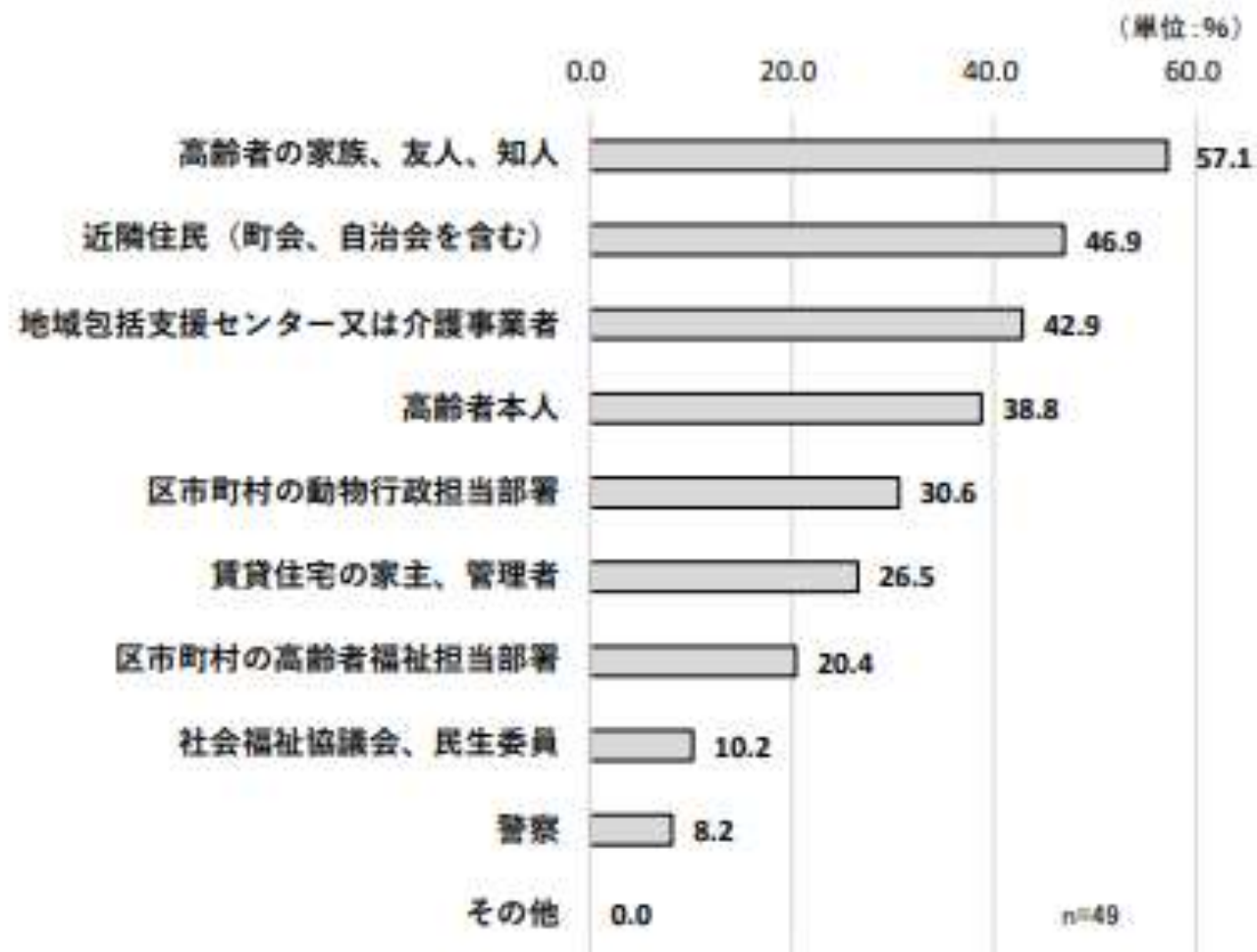


東京都動物愛護相談センターを対象としたアンケート

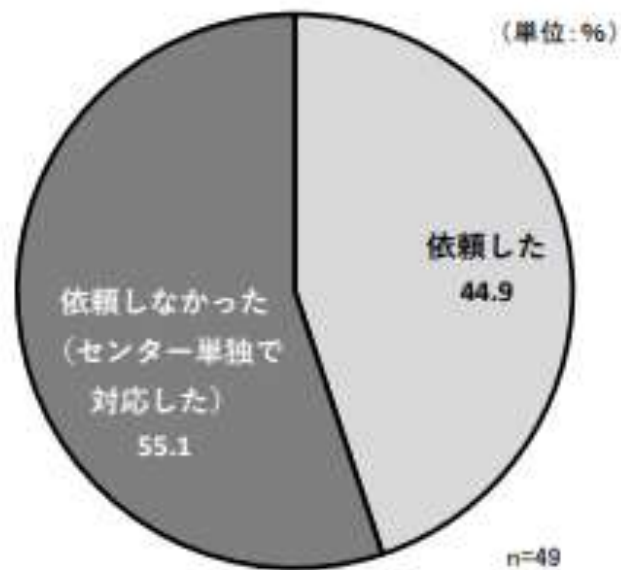
図表 65 対応に苦慮しているもの



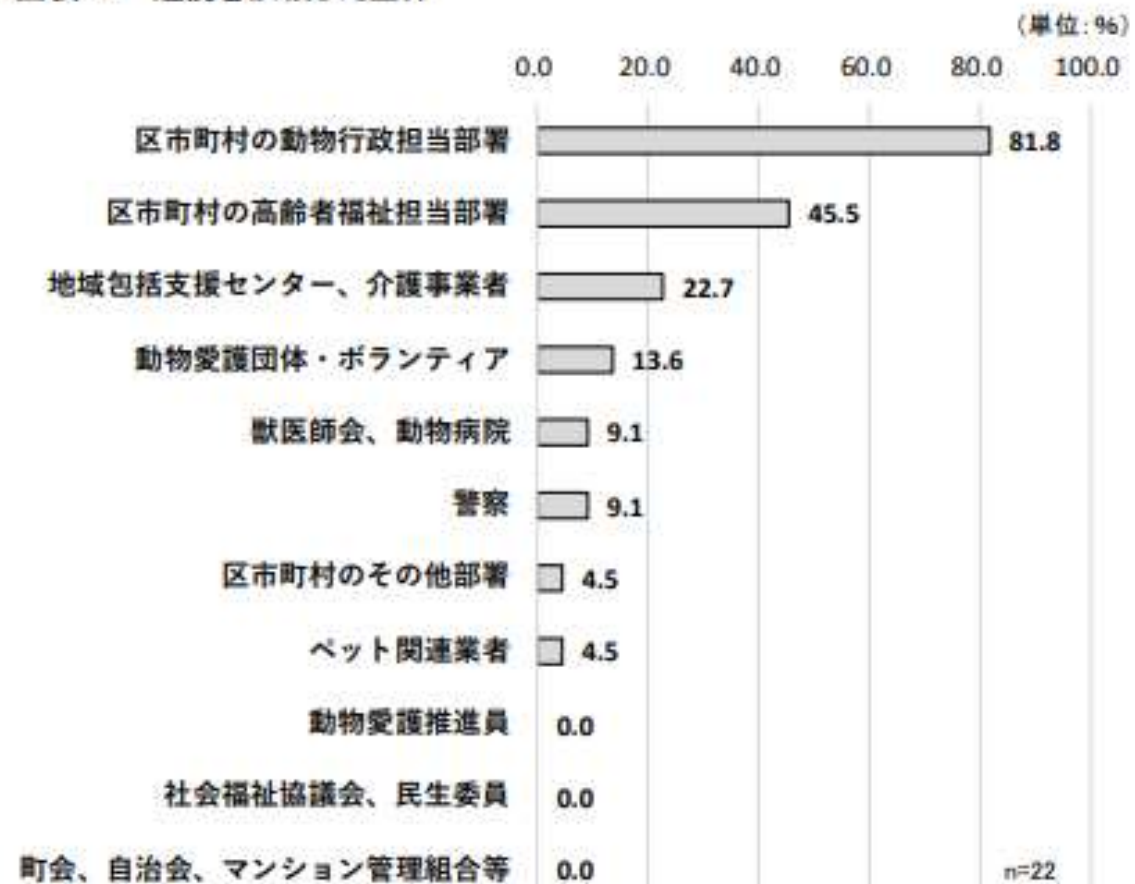
図表 66 どのような人から相談が寄せられるか



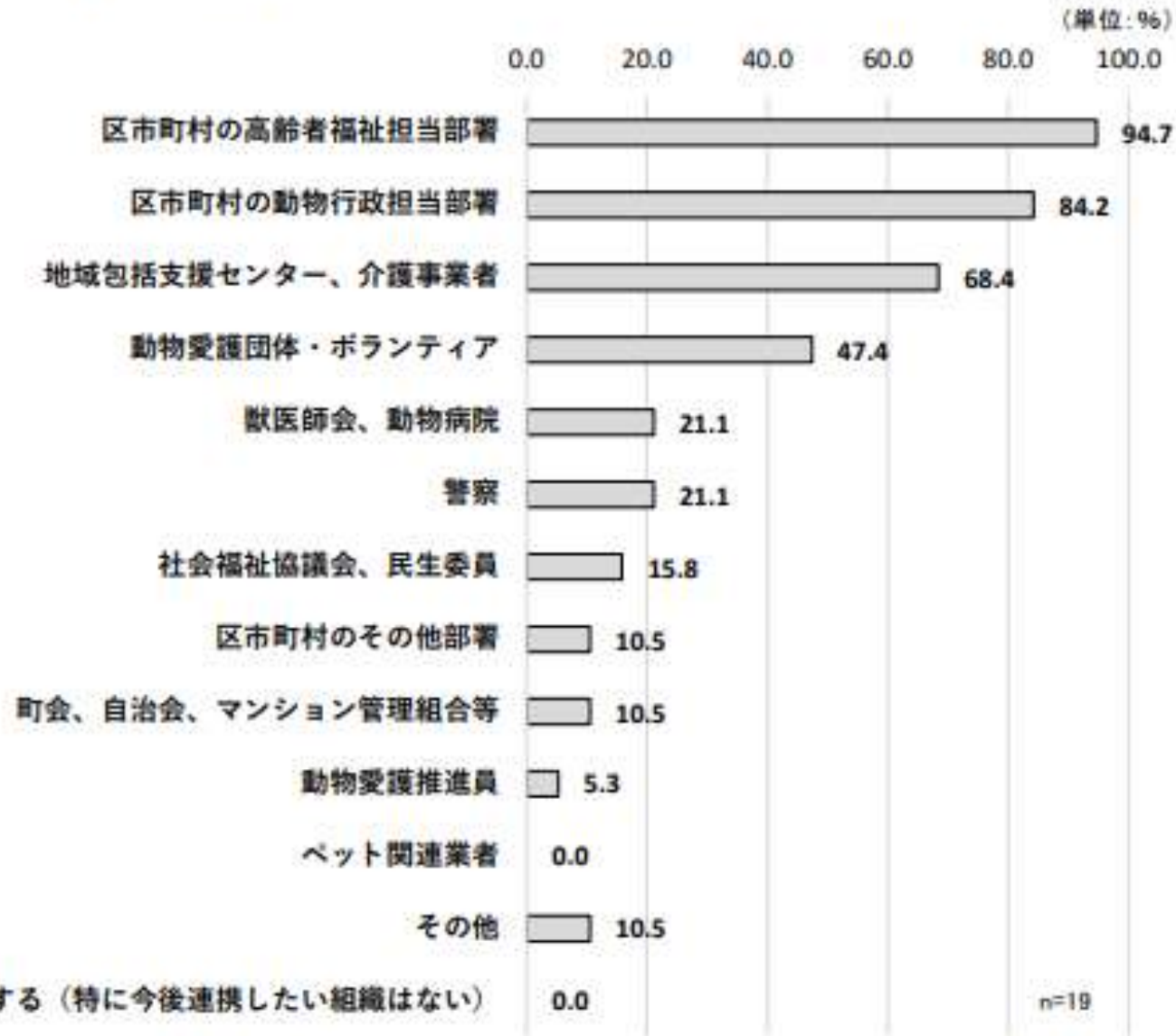
図表 67 相談への対応にあたり他機関に連携を依頼したか



図表 68 連携を依頼した主体



図表 70 連携が必要だと思う主体



高齢者のペット飼育に関する課題

- (1) 動物飼育に関する知識の情報発信
- (2) 動物に関する相談先の共有
- (3) 自治体の部署間等の連携強化
- (4) 東京都動物愛護相談センターの対応力強化
- (5) 動物に関する法規制を踏まえた対応

高齢者のペット問題解決に向けた取組

- 1 情報発信の強化
- 2 庁内の部署間連携の推進
- 3 予防・早期探知の基盤作り
- 4 関係者の連携による介入

図表 74 高齢者のペット飼育に関する課題と高齢者のペット問題の解決に向けた取組の関係

■高齢者のペット飼育に関する課題

1 動物飼育に関する知識の情報発信

2 動物に関する相談先の共有

3 自治体の部署間等の連携強化

4 東京都動物愛護相談センターの対応力強化

5 動物に関する法規制を踏まえた対応

■高齢者のペット問題の解決に向けた取組

1 情報発信の強化

- ① 適切な媒体の選定
- ② 高齢者担当部署との連携
- ③ 東京都や環境省等の啓発物の活用

2 庁内の部署間連携の推進

- ① 動物担当部署から高齢者担当部署への働きかけ
- ② 連絡会議の設置
- ③ 条例の制定、計画の策定

3 予防・早期探知の基盤づくり

- ① 高齢者の関係者との情報共有
- ② 高齢者の見守りボランティアに対する情報発信
- ③ 地域猫活動の推進

4 関係者の連携による介入

- ① 的確な役割分担・協力体制作り
- ② 問題発生の前後における情報収集
- ③ 複数の職員・機関による交渉
- ④ 情報共有・管理の徹底

おうちのペットの
正しい飼育方法を
アドバイス



わんにゃん 暮らしのアドバイス

<https://wan-nyan-kurashi.com>

WEBサイトは
こちらから



“困った行動への対応方法” “しつけのコツ”
“子猫や子犬・高齢の犬猫を迎えたとき” など
犬や猫とのさまざまな暮らしのコツについて
専門家の獣医学的、行動学的視点から
適切な飼育情報を発信する WEB サイトです



このWEBサイトは、東京都の大学訪問者による事業
実施費助成事業「大学と社会」事業、NPOの協賛に
よる高齢者の福祉向上を目的とした動物との共生社会の
実現と普及を図る」により東京農工大学が作成しました。



わんにゃん 暮らしのアドバイス

チャイムに吠えて
困っちゃう



お散歩で
ひっぱるときは

犬との暮らし

暮らしのコツ
困った行動のとき
子犬を迎えたとき
しつけのコツ
おとなの犬を迎えたとき
高齢犬のケア

M&S IRO (K&S) SECRETARI



トイシの選び方



おとなの猫や
高齢猫の
ケアは?

猫との暮らし

猫との暮らし

暮らしのコツ
困った行動のとき
子猫を迎えたとき
おとなの猫を迎えたとき
高齢猫のケア

知育玩具や
おもちゃの
使い方



災害には
どう備えるの?



犬と猫の災害対策



このほかにも、使える情報がたくさん!! 東京農工大学が発信する情報サイトです。